

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

**平成 24 年度～平成 28 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要**

- 1 学校法人名 学校法人東京女子大学 2 大学名 東京女子大学
- 3 研究組織名 丸山眞男記念比較思想研究センター
- 4 プロジェクト所在地 〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1
- 5 研究プロジェクト名 20世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—
- 6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
安藤 信廣	現代教養学部	教授・図書館長

8 プロジェクト参加研究者数 19 名9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
		(テーマ1)	
安藤信廣	現代教養学部・教授・図書館長	幕末期知識人の相互交流と国際認識	20世紀の教養の原点の究明
雨田英一	現代教養学部・教授	戦後日本における民主化と教養・文化・教育をめぐる論議—丸山眞男を中心として—	近代日本の教養観と教育観の解明
小檜山ルイ	現代教養学部・教授	近代日本の知識人の系譜とキリスト教	近代知識人の知的系譜の解明
茂木敏夫	現代教養学部・教授	東アジア論と丸山眞男	東アジアにおける丸山受容史の究明
湯浅成大	現代教養学部・教授	丸山眞男のアメリカ観	日米知識人の交流関係の解明
油井大三郎	東京大学、一橋大学・名誉教授	第二次世界大戦後の日米関係と丸山眞男	国際政治における丸山の役割の解明
區建英	新潟国際情報大学・教授	丸山思想史と現代中国思想の比較省察	20世紀知識人の知的国際交流の解明
苅部直	東京大学大学院法学政治学研究科・教授	丸山眞男における精神的貴族主義の系譜	丸山における教養観の解明
孫歌	中国社会科学院文学研究所・教授	国際的視野から読む丸山政治学の政治性	東アジアにおける丸山受容史の究明
アンドリュー・バーシェイ	カリフォルニア大学パークレー校・教授	丸山とアメリカ知識人との知的交流史の研究	日米知識人の交流関係の解明
渡辺浩	法政大学法学部・教授	丸山眞男の日本政治思想史研究とその影響	丸山の日本思想史論と知的影響の究明
眞壁仁	北海道大学大学院公共政策学連携研究部・教授	日本の教養教育と思想史学の展開	近代日本の教養観と教育観の解明

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

		(テーマ2)	
黒沢文貴	現代教養学部・教授	文庫所蔵一次資料の網羅的な調査研究	丸山文庫所蔵の未公刊資料の翻刻とデジタル化の推進
土合文夫	現代教養学部・教授	文庫所蔵楽譜類とそれへの書きこみの調査研究	丸山と音楽との関わりの解明及び丸山の教養・芸術観の検討
松沢弘陽	北海道大学・名誉教授	丸山眞男への国内・国外からの来簡の調査	日本内外での丸山の影響をさぐる研究の基礎作業
中田喜万	学習院大学法学部・教授	「正統と異端」関係草稿の校訂と補注	重要一次資料の翻刻及びデジタル化の基礎作業
平石直昭	東京大学・名誉教授	50年代後半の日本政治思想史講義の復元(1956、59年度を担当)	重要一次資料の翻刻公刊の基礎作業
宮村治雄	成蹊大学アジア太平洋研究センター・客員研究員	50年代後半の日本政治思想史講義の復元(1957、58年度を担当)	重要一次資料の翻刻公刊の基礎作業
河野有理	首都大学東京都市教養学部・教授	「正統と異端」研究会についての調査と資料整理	重要一次資料の翻刻及びデジタル化の基礎作業
(共同研究機関等)			
該当なし			

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
該当なし			

(変更の時期:平成 年 月 日)

新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

【本事業の研究目的】

新しい世界認識を開く基礎となる教養の重要性が注目されている今日、20世紀において様々な知的分野で巨大な足跡を残し、教養についても独自の認識を展開した丸山眞男の業績の再評価が強く求められている。また、その業績の再評価を通じて、教養及び教養教育の現在的意義の解明が期待される。その状況下、本事業では、以下3点の研究目的を設定した。

- ・20世紀知識人たちの教養形成過程及び教養観を解明する(研究テーマ1)。
- ・丸山眞男文庫所蔵資料をデジタルアーカイブ化し、広く日本及び世界に向けて公開する(研究テーマ2)。
- ・新渡戸稲造、南原繁、丸山らが知識人の国際的コミュニティ形成に果たした役割を明らかにし、21世紀における新たな知的コミュニティ形成の方向性を探求する(研究テーマ1、2)。

【本事業の計画概要】

テーマ1 「20世紀知識人の教養と学問—丸山眞男文庫を素材として—」

平成24年度 丸山の既刊著書・論文の網羅的調査。

平成25年度 丸山の研究の主題に沿って、これまでの諸研究を探索。

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

平成 26 年度 初年度以来の業績をふまえ、中間シンポジウムを開催し成果をまとめる。自己点検・評価を実施。中間報告を作成・提出(テーマ2と共通)。
 平成 27 年度 丸山を中心とする近代日本の教養の思想的系譜に関する研究を進める。
 平成 28 年度 5 年間の成果をまとめ、各自が研究テーマに即して論文を作成・発表。20 世紀日本における教養についての国際シンポジウムを開催、5 年間の成果をまとめ、研究成果を刊行、プロジェクト全体に対する自己点検・評価及び外部評価を実施(テーマ2と共通)。

テーマ2 「丸山眞男文庫所蔵資料の調査研究とデジタルアーカイブ構築」

平成 24 年度 未公開草稿資料の全面的調査と翻刻開始。
 平成 25 年度 丸山に関連する欧米の文献調査。未公開草稿資料の調査をもとにデジタル化を開始。
 平成 26 年度 未公開草稿資料類の調査をもとに翻刻を進め、デジタルアーカイブ・システム構築に向けた準備開始。
 平成 27 年度 未公開草稿資料の調査のデジタル化を進め、アーカイブ・システムを構築し、部分公開を開始。
 平成 28 年度 未公開草稿資料類のデジタルアーカイブを完成させ、資料を公開。未公開草稿資料類をまとめた資料集を刊行。

(2) 研究組織

本事業は、本学丸山眞男記念比較思想研究センターを中心とし、同センター運営委員会と図書館が連携して研究支援体制を敷いている。研究者は政治学・政治思想史・国際関係史・歴史学・教育学・文学等の研究に携る東京女子大学教員 8 名と、丸山眞男研究及び日本政治思想史・政治学等の研究を行っている学外研究者 9 名、さらにそれらに近接した領域で活動している海外研究者 2 名によって構成されている。各研究者の交流を図り、また研究テーマ1と研究テーマ2の認識の共有をめざし、隔月開催の研究会において、研究者間、テーマ1とテーマ2の間の連携を取っている。全体の統轄は、安藤信廣が当たっている。テーマ1については、安藤信廣を研究代表者とし、各研究者から研究状況につき報告を受け、研究会及び運営会議において統一的な進行ができるよう連絡・調整をしている。テーマ2は、黒沢文貴を研究責任者とし、その下に、翻刻関係(平石直昭、宮村治雄、中田喜万、河野有理)、楽譜関係(土合文夫)、書簡関係(松沢弘陽)、編集関係(黒沢文貴)の責任体制をとっている。両テーマの連絡・調整は、安藤と黒沢両名が打ち合わせを行い、連携して研究を進めると共に、学外との交渉に係る事案は、丸山眞男文庫顧問(平石直昭)と適宜協議をもち、学内の運営方針に係る事案は、丸山眞男文庫を所管する丸山眞男記念比較思想研究センター運営委員会に諮ることによって事業を進めてきた。

また、特任研究員・研究補助員として日本政治思想史を専門とする若手研究者 6 名を採用すると共に、補助作業に本学大学院生・学部学生を雇用している。若手研究員・研究補助員は、丸山眞男文庫所蔵資料の整理・調査及びデジタル化、デジタルアーカイブ構築等の実務に携わると共に、参加研究者の研究・事業の推進のため、研究支援体制を担っている。なお、安藤・黒沢両名は、特任研究員・研究補助員を統督し、他の参加研究者とも協同して若手研究者の育成を図りつつ、実務上の運営に当たった。

(3) 研究施設・設備等

本学図書館内丸山文庫室 74 m²及び丸山眞男記念比較思想研究センター26 m²において 7 名が同文庫資料の整理と調査研究等を行っている。また、丸山文庫草稿類デジタルアーカイブ構築のため、丸山文庫室に高速かつ高解像度(400dpi)でのデジタル化が可能なオーバーヘッド型ブックスキャナ BookShot3600 を平成 25 年度に設置し、平成 26 年 7 月末日現在で 725 時間、草稿類資料のデジタル化を行った。その後も書込みのある資料等のデジタル化を継続し、平成 29 年 3 月末日現在で 2325.5 時間、総枚数 48,076 枚のデジタル化を行った。

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

本事業では、テーマ1とテーマ2との双方の参加研究者が協同して研究状況の共有並びに対外的公開を行い、全体的統一を図っているが、テーマ毎に独自性の強い課題をもって研究を進めた。テーマ1では、個々の研究者の研究を基礎とし、テーマ2では、デジタルアーカイブの構築等のための共同作業を中心としている。

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

テーマ1「20 世紀知識人の教養と学問—丸山眞男文庫を素材として—」

年度ごとの研究成果の概要は以下の通り。

【平成 24 年度】丸山眞男の日本政治思想史研究の全体像の把握につとめ、各研究者が既刊の講義録等を網羅的に読み、丸山眞男文庫所蔵の未公刊草稿資料類の内容を把握するようにした。その中で、以下の研究を進めた。(a)前近代日本における宗教と政治の問題を扱った丸山著作の調査。(b)戦後日本の民主化と教養・文化・教育をめぐる思索内容を、丸山が師とした長谷川如是閑との比較による分析。(c)近代日本におけるリベラル・アーツ、教養の系譜、丸山の学問とアメリカの学問・社会・政治との関係、近代中国思想との関係などの検討。なお、定例研究会を開始し、本年度は安藤 * 171 が報告を行った。本年度の主な研究業績として、雨田 * 1、安藤 * 4、苅部 * 128 * 129、孫歌 * 130、油井 * 131がある。

【平成 25 年度】丸山眞男が研究した主題に関連するその後の諸研究を、各研究者が探索しつつ、各自の課題を追究した。具体的には、主に次のような研究を進めた。(a)丸山の学問に関連する欧米及び中国の文献の研究。(b)長谷川如是閑と丸山の比較分析及び関連文献と資料の調査と整理。(c)1950 年代の世界情勢、国際環境と政治思想の動向についての調査。(d)近代日本におけるリベラル・アーツ、教養の系譜として、新渡戸稲造と矢内原忠雄の理念・実態に関する研究。(e)20 世紀の知的コミュニティの実態についての調査と考察。なお、定例研究会にて、小檜山 * 173、苅部 * 174、雨田 * 175 が報告を行った。本年度の主な研究業績として、區 * 132、苅部 * 133、小檜山 * 8 * 9、茂木 * 11 * 12、湯浅 * 13、油井 * 14 * 134がある。

【平成 26 年度】各研究者が、これまでの研究成果の中間的なとりまとめを試み、シンポジウム * 159 等において意見交流を行い、研究を深めた。具体的な研究内容は、主に次の通りである。(a)新渡戸稲造に関する研究及び戦後日本の教養教育の実態についての検討。(b)丸山が精神的貴族主義を構想するにあたり念頭においた諸思想の検討。(c)丸山の「執拗低音」の視点に基づく中国の伝統思想の構造の分析。

(d)「現代世界の中で丸山眞男をどう読むか」を統一テーマとした中間シンポジウム * 159 の開催。苅部直「政治のための教養—丸山眞男百歳」* 160 は、現代において市民が政治にかかわっていくための教養として、ルールを共有した上で競いあう「遊び」の修練を重ねることをリベラル・デモクラシーが存立する条件と考えた丸山に学ぶべきものがあると論じた。油井大三郎「丸山眞男とアメリカ文化の交錯」* 161 は、「自立した市民」の育成に生涯をかけた丸山から学ぶことが現在切実な課題となっているという問題意識から出発している。區建英「丸山と中国の近代的思考の模索—私の世代の体験を中心に—」* 162 は、日本の精神構造の深層に潜む執拗低音を捉えようとした丸山の思想史方法論が、今なお儒教の伝統が深層で持続している中国において、アクチュアルな問題関心のもとに受容されていることを明らかにした。趙星銀（招聘）「韓国における丸山眞男」は、個人の自立と政治との緊張を「自由」の問題として考える経験が乏しい韓国では、丸山が探究した「反・反共」の自由というものを理解することが必要であると論じた。以上の報告に対する轟莉莉（招聘）によるコメントをうけて議論 * 163を深めた。

なお、定例研究会にて眞壁 * 177 が報告を行った。今年度の主な研究業績として、雨田 * 15、區 * 18 * 135、苅部 * 19 * 23、小檜山 * 25 * 26 * 28、孫 * 136、バーシェイ * 137、茂木 * 30 * 31 * 33 * 34 * 138 * 188、湯浅 * 36、油井 * 37、油井・區 * 38、油井・小檜山 * 139、渡辺 * 39がある。また、丸山生誕 100 周年に当たる年であったため、苅部 * 184 * 185 のような成果を生んだ。

【平成 27 年度】前年度より公刊を開始した未公刊資料(後述)や新たに公開したバーチャル書庫 * 182・草稿類デジタルアーカイブ * 183 等により、各研究者が丸山文庫所蔵資料を活用し、最終年度発表予定の成果に向けて、丸山を中心とする近代日本の教養の思想的系譜に関する研究を進めた。具体的な内容は次の通りである。(a)戦後日本の民主化と教養・文化・教育をめぐる思索内容を、丸山と丸山が師とした南原繁との比較による分析・整理。(b)ロバート・ベラーの学問方法論に対する丸山の評価、宗教と社会科学との関係についての考え等、丸山とベラーとの知的交流の内容についての検討。(c)中国思想史における丸山『日本の思想』の方法論の適用、丸山の孫文「三民主義」論についての検討。(d)丸山の儒教解釈及び、「教養」教育において思想史学のはたす役割、近現代日本の思想史研究における「儒教」の位置づけについての検討。(e)マルクス主義批判と政治学の原理の再構成を並行した 1950 年代の丸山の論文と 1960 年度の政治学講義との関連性の検討。

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

なお、定例研究会にて茂木*178 が報告を行った。今年度の主な研究業績として、苅部*43*53*140、小檜山*57、バーシェイ*58、眞壁*59*191、茂木*62*63、渡辺*66がある。

【平成 28 年度】各研究者がこれまでに進めてきた研究を総括すると共に、現在の国内外の政治・社会・文化の状況を見据え、成果を論文としてまとめた。またその中で、成果を集約的に示す国際シンポジウムを開催し、意見交流を行い、研究を深めた。具体的な研究内容は、主に次の通りである。(a)改定前の教育基本法と南原繁の教育論議との関連性に対する分析。(b)戦後日本の社会科教育に対する尾崎行雄、清水幾太郎、丸山眞男それぞれの関わりについての調査・分析。(c)高校教育における丸山の文章の用いられ方、丸山の「政治と教育」に対する考えについての調査・検討。(d)国連中心主義の思想について、丸山と中村哲・横田喜三郎との比較による検討。(e)日本の「占領改革」の研究史の総合的な検討。(f)丸山が戦時期に読み込んだドストエフスキー、波多野精一、その他の宗教関連著作に対する丸山の理解、及びそれとロバート・ベラーとの思想的関係についての検討。(g)丸山の「執拗低音」の視点に基づき、孫文の思想の特質についての検討。(h)丸山のアメリカ観を探るうえで基礎資料となる英文草稿の調査、資料の解析と翻訳。

(i)「新しい丸山眞男像の発見 その世界大の視圏と交流のなかで」を統一テーマとした国際シンポジウム*164 の開催。平石直昭「丸山眞男文庫の意義と可能性について」*165 は、丸山文庫の設立背景、設立後の運営と資料調査の過程を詳しく紹介し、多くの人々の尽力と多様な試みとによって、丸山文庫がこれからの丸山研究はもとより、人文・社会科学的研究とその教育、アーカイブ研究とその実践へ寄与する意義と可能性を明らかにした。ヴォルフガング・ザイフェルト(招聘)「丸山眞男とドイツの思想・学問—戦前、戦中、そして戦後—」は、ヘーゲルとマルクス、マンハイム、ヴェーバー、シュミット、ノイマンなど丸山の思想・学問を理解する上で不可欠のその読書経験について論じ、丸山の思想・学問の歴史的意義を考える上で、フランクフルト学派との比較の必要を示唆した。孫歌「丸山眞男の「三民主義」論」*166 は、孫文の「三民主義」とそれに対する丸山の解釈との差異に着目し、そこから丸山の「三民主義」解釈の普遍的意義を論じ、丸山の政治思想史における視座が常に「政治教育」の展望を伴っていたことを示した。アンドリュウ・バーシェイ「プロテスタント的想像カー丸山眞男、ロバート・ベラー、そして日本思想研究に関する覚書—」*167(紙上参加)は、丸山の学問とそれを規定し続けた実存的動機を取り上げ、それをロバート・ベラーにおける学問及びその実存的動機と比較することによって、両思想家の普遍的意義を論じた。金錫根(招聘)「韓国における丸山眞男の思想・学問の受けとめられ方」は、韓国社会における丸山と日本思想史への理解のあり方・受容について紹介し、韓国社会で丸山を読むことが近代性への理解、伝統に対する態度、自己を相対化し他者と対話する素地などを育てていくことに意義をもっていること、翻ってそのことは日本でも同様であることを論じた。以上の報告に対する黒沢文貴によるコメント*168 をうけて議論*169 を深めた。

(j)「20 世紀知識人の教養と学問—丸山眞男文庫を素材として—」をテーマとした論文集*141 の発行。安藤信廣「幕末期知識人の対外認識」*142 は、丸山「1947 年度・1945 年度「東洋政治思想史」講義原稿」*99 を活用し、吉田松陰の教養のうえに確立された対外認識の前近代性と近代性の交錯を論じた。雨田英一「戦後日本における民主化と教養・文化・教育をめぐる論議」*143 は、丸山「政治嫌悪・無関心と独裁政治」(『丸山眞男集 別集 第 1 巻』*153 所収)などを活用し、戦後の丸山の公民教育への寄与とその意義を論じた。小檜山ルイ「「人格」という概念」*144 は、丸山文庫所蔵の日本思想史文献を活用し、キリスト教信仰をもった中村正直、新渡戸稲造、吉野作造らにおける「品行」「人格」の概念の意味、その思想的・社会的背景との関連を論じた。油井大三元「丸山眞男とアメリカ文化の交錯」*145 は、丸山文庫所蔵の草稿類資料(会議録等)を活用し、知米派知識人、米国政治学が丸山に与えた影響と同時に、丸山が米国知識人(近代化論)に及ぼした影響・寄与を論じた。區建英「孫文「民権主義」の時空転換と創造」*146 は、丸山「孫文と政治教育」(『丸山眞男集 別集 第 1 巻』*153 所収)に示唆を得、丸山の思想史方法を中国思想史に適用して、孫文が近現代中国思想史においてもつ意義を論じた。苅部直「村岡典嗣と丸山眞男」*147 は、丸山文庫所蔵の草稿類資料(受講ノート等)、東北大学村岡典嗣文書所蔵資料(講義ノート)を活用して、丸山の思想史学の形成において村岡の学問がもった意味を論じた。渡辺浩「丸山眞男における「原理」・「主体」・「秩序」」*148 は、デジタルアーカイブ*183 で閲覧できる資料(講演記録等)を活用して、時期の異なる丸山の日本思想史研究を体系的に論じ、そこに見られる丸山の思想に対する批判が部分的な認識にとどまっていることに言及した。眞壁仁「神の憑依するところ」*149 は、デジタルアーカイブ*183 で閲覧できる資料(講演記録、メモ等)を活用して、丸山の「儒教の日本の変容」という考え方に示唆を得つつ、彼が論じなかった儒教の「宗教」的側面における「日本の変容」を論じた。

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

なお、定例研究会にて湯浅 * 180 が報告を行った。上記論文集以外の本年度の主な研究業績として、雨田 * 67、安藤 * 69、區 * 70 * 71 * 150 * 192、苅部 * 72 * 76、小檜山 * 79 * 80 * 151、茂木 * 82、湯浅 * 83 * 84 がある。

テーマ2「丸山眞男文庫所蔵資料の調査研究とデジタルアーカイブ構築」

研究課題ごとの成果の概要は以下の通り。

【丸山眞男文庫所蔵未公開草稿資料類の調査・翻刻公刊】

(1)計画通り、丸山眞男文庫所蔵未公開草稿資料類の調査を進め、毎年度『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』(以下『センター報告』)で進捗・達成状況 * 6 * 98 * 16 * 41 * 69 * 141 を示した。この調査にもとづく資料の細分化、及び関係者による資料の寄贈等により、資料件数が増加した(公開資料約 5000 点)。

(2)上の調査等をふまえ、これまでに公刊した出版物、今後刊行予定の出版物は以下の通り。(a)『センター報告』誌上に学術的に重要な未公開草稿等 * 94 * 97 * 99 * 109 * 116 * 120 * 125 を翻刻した。(b)丸山文庫所蔵資料による新たな校訂を本文に反映した『丸山眞男集』全 16 巻(岩波書店)の第 4 刷を 2014 年 3 月～2015 年 3 月に公刊。(c)丸山文庫所蔵資料による新たな情報を反映した新訂増補『丸山眞男集』別巻 * 156 を 2015 年 7 月に公刊。(d)東京女子大学丸山眞男文庫編『丸山眞男集 別集』(全 5 巻、岩波書店) * 153 * 154 * 155 が 2014 年 12 月より刊行開始(現在第 3 巻まで刊行)。第 4 巻・第 5 巻は、丸山文庫所蔵の「正統と異端」研究会の録音記録(80 時間分)を中心とした資料が収録される予定で、現在、文字起こし作業、本文校訂、関連資料の調査を進めている。なお、予備調査の内容は公開研究会 * 181 および論文 * 092 * 100 で発表するとともに、特定できた関連資料の翻刻 * 109 * 120 を行った。(e)丸山が東京大学法学部で行った「東洋政治思想史」講義録の 1956 年度分より 1959 年度分を、『丸山眞男講義録』続巻として、東京大学出版会より刊行する。現在ほぼ講義の復元作業を終え、2017 年 3 月入稿、同年 9 月刊行の予定。なお定例研究会で、平石が編集作業の過程を定例研究会で報告 * 170 * 179 した。

【丸山眞男文庫所蔵書簡類の調査・翻刻公刊】

丸山文庫所蔵の書簡類(丸山眞男宛来簡類)の調査とリスト作成を作成した。発信者数は約 3,400 件にのぼるため、今回は、発信者個人を特定することに努め、発信者名だけのリストを作成した。丸山および関係者のプライバシーの保護に配慮し、リストは関係者のみに配付した。竹田行之氏(元岩波書店編集者)の助力を得て、吉野源三郎が丸山に宛てた書簡 36 点を翻刻した。2017 年 3 月には、新たに発見された吉野源三郎書簡 4 通のほか、鷲巣力氏(元平凡社編集者、立命館大学加藤周一現代思想研究センター長)の助力を得て、加藤周一が丸山に宛てた書簡 26 通を翻刻した。

【丸山眞男文庫所蔵未公開草稿資料類のデジタル化とデジタルアーカイブ構築】

(1)丸山文庫所蔵の草稿資料類を対象としたデジタルアーカイブ * 183 を、2015 年 6 月、構築・公開した。当該システムによって、所蔵資料の詳しい検索を可能にすると共に、資料の画像をインターネット上で閲覧することを可能にした。2015 年 12 月には、丸山眞男作成資料のほぼすべてを含む資料はデジタルアーカイブ上に画像公開している。

(2)丸山文庫所蔵の草稿類資料に登録されている岡義武作成資料を、2016 年 7 月、著作権継承者の許諾を得てデジタルアーカイブ上に公開した。著作権継承者の意向により資料の一部は、本学図書館内での限定公開としている。

(3)ブックスキャナを用いた当該資料のデジタル化作業が 2013 年度より進行。対象となる資料約 5,000 点のうち、約 2,700 点のデジタル化が終了した(デジタル化対象資料の 54%に相当)。

【丸山眞男文庫バーチャル書庫の構築】

丸山文庫所蔵の図書資料類を対象としたバーチャル書庫 * 182 を、2015 年 3 月に構築・公開した。当該システムによって、丸山文庫所蔵図書資料類が丸山宅に所蔵されていた時の状態をインターネット上で閲覧可能とした。当該システムでは、個々の書誌が東京女子大学図書館 OPAC の詳細情報とリンクしており、丸山の書込みの有無やその程度まで把握できる。蔵書状況から丸山の思想・学問の内容へのアプローチを可能とする研究リソースである。

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

【丸山眞男文庫所蔵楽譜類の調査・デジタル化】

(1)丸山眞男文庫所蔵の楽譜類、とくに丸山自身の書込みが為されているものを中心とする調査と研究を進めた。進捗状況は研究会*172 で共有した。楽譜への書込みの意味を、丸山の他の知識人との交流から理解していくための試論を研究会で報告*176 するとともに、論文*113 にまとめた。

(2)ブックスキャナを用いて丸山眞男文庫所蔵楽譜類の丸山による書込みのあるページのデジタル化作業を進めた。2015年3月、全434冊のデジタル化が完了、公開し閲覧可能となった。

【若手研究者による研究業績】

本事業の実務に携わっている若手研究者たちは、以上の事業全体及びその成果について大きく寄与したとともに、参加研究者の研究指導のもと、数々の成果を発表した。その多くは、丸山文庫所蔵未公開草稿資料類の翻刻や各地のアーカイブ等における資料調査に基づくものである。主な成果は下記の通り(本事業参加研究者と共同のものは割愛)。これらの成果は、他の研究者・丸山文庫利用者等によってすでに活用されつつある。

- ・山辺春彦ほか『戦没学生たちの軌跡：資料集2012年企画展』わだつみのこえ記念館、2012年、総39頁。
- ・山辺春彦「佐々木八郎とアダム・スミス」『わだつみのこえ』第137号、29～33頁、2012年、査読無。
- ・山辺春彦ほか『不戦へつなぐ—戦没学生遺稿遺品展：「学徒出陣」70年記念』わだつみのこえ記念館、2013年、総37頁。
- ・山辺春彦「丸山眞男文庫の事業」丸山眞男生誕百年記念講演会、東京・西荻図書館、2014年、講演。
- ・川口雄一「南原繁の「世界秩序」構想——戦前・戦中・戦後——」南原繁研究会主催・第11回南原繁シンポジウム「南原繁と平和：現代へのメッセージ」、東京・学士会館、2014年、学会発表。
- ・山辺春彦ほか『不戦へつなぐ—戦没学生遺稿遺品展：「学徒出陣」70年記念』わだつみのこえ記念館、2013年、総37頁。
- ・竹田行之・山辺春彦・金子元・川口雄一「吉野源三郎書簡 丸山眞男宛 36点」(翻刻・校注)『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第9号、151～178頁、2014年、査読無。
- ・山辺春彦・金子元・播磨崇晃(解題・翻刻)「丸山眞男」“Some Aspects of Moral Consciousness in Japan”(倫理意識の「古層」)原稿」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第10号、148-122頁、2015年、査読無。
- ・山辺春彦「佐々木八郎「生産力」と「経済倫理」その歴史的研究」について」佐々木八郎さんの思い出を語る会、東京・東京大学、2015年、学会発表。
- ・千葉眞・川口雄一ほか『南原繁と平和——現代へのメッセージ——』EDITEX、2015年、総189頁。
- ・堀内健司「国威宣布の宸翰における「世界」像と日本像—船中八策・大政奉還の上表などを踏まえて」社会理論学会第109回月例研究会、東京・渋谷区笹塚区民会館、2015年、学会発表。
- ・川口雄一・金子元・佐藤美奈子・播磨崇晃・堀内健司・山辺春彦「丸山眞男文庫バーチャル書庫・草稿類デジタルアーカイブの構築と公開——丸山眞男研究プロジェクト テーマ2 成果報告——」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第11号、7～17頁、2016年、査読無。
- ・川口雄一「南原繁の政治哲学における「非合理性」と「合理性」——1930年代後半の「政治上の合理主義」論を中心として——」『政治思想研究』第16号、85～116頁、2016年、査読無。
- ・川口雄一「庶民大学三島教室と丸山眞男——「学問の民主主義化」の運動と思想——」三島市立図書館主催・2016年度第1回図書館講座、静岡・三島市民生涯学習センター、2016年、講演。
- ・鷲巣力・川口雄一・金子元・山辺春彦(翻刻・校注)「加藤周一書簡 丸山眞男宛 26点」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第12号、31～58頁、2017年、査読無。
- ・川口雄一「庶民大学三島教室関連資料調査報告——その「現在」と第一次史料——」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第12号、63～74頁、2017年、査読無。

＜優れた成果が上がった点＞

前項に述べた研究成果の概要のうち、テーマ別、また両テーマに共通する優れた成果は以下の通り。

(1)テーマ1 「20世紀知識人の教養と学問—丸山眞男文庫を素材として—」

研究者各自が個別に研究を進め、研究会等で交流をはかり、丸山文庫所蔵資料を活用した論文(最終年度シンポジウムの記録を含む)を最終年度に刊行した。当該論文集に集約される本事業の成果は、以下の3つの学術的意義をもつ。

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

- ・丸山眞男研究、または日本政治思想史を専門としていない研究者は、丸山著作・丸山文庫を活用することによって、各分野(日本文学、教育学、中国思想史、アメリカ政治学、政治外交史等)の研究に大きく寄与できた。そのことによって、丸山著作・丸山文庫には、「教養」の研究・教育に資する深さと広がり、学際的な性格があることを実証した。
- ・とくに丸山研究の面では、丸山文庫所蔵資料を活用することにより、既刊の丸山著作の新しく深い読解、彼の思想・学問を体系的に把握できること、思想・学問形成過程をたどる上でこれまで以上に内在的に把握できることを実証した。日本における政治思想史の分野では、アーカイブを活用して研究を進めることがまだ一般的でない現状において、先駆的な業績であることを示している。
- ・丸山はもとより、新渡戸稲造、孫文、ロバート・ベラーらの思想を掘り下げていくことにより、彼らが内面に抱いていた教養の世界にアプローチするとともに、彼らの間の思想的系譜または交流といった関係性を明らかにしていくことができた。

(2)テーマ2 「丸山眞男文庫所蔵資料の調査研究とデジタルアーカイブ構築」

バーチャル書庫とデジタルアーカイブの構築・公開、資料調査にもとづく資料の公開・翻刻を行った。これらの成果は、以下のような学術的・社会的意義をもつ。

- ・バーチャル書庫および草稿類デジタルアーカイブは、インターネットを通じた資料の情報・画像の公開により、世界中の幅広い利用者が活用できる環境を整備した。さらに、これらのウェブサイトには、各々英語・中国語の説明文を掲載したことにより、海外からのアクセス数が増加した。丸山文庫を国際的な研究拠点とする基盤が形成できた。
- ・デジタルアーカイブ公開後、丸山と交流をもった人物や土地のアーカイブで資料調査を進めることにより、さらに丸山文庫所蔵資料の詳しい情報や両アーカイブの資料の関連性を明らかにできることがわかった。またその際、現地の研究員・学芸員と交流をもち、アーカイブ間のネットワークを強化することができた。
- ・丸山の未公表原稿の主要なものは活字化したことによって、丸山の筆跡に慣れていない利用者にも資料を活用できる機会を提供した。上記ウェブサイトと合わせて、これら資料の活用の環境づくりに成功したことは、上記テーマ1で実証された。
- ・丸山を軸とする知識人の交流について、概要を書簡リストによって、具体的な内容を書簡の翻刻・公開によって示すことができた。
- ・楽譜の調査・デジタル化によって、教養として内容豊かな楽譜への書込みを公開するとともに、その学術的意義を確定していくための研究を進めることができた。この成果が他の研究者によって活用され始めていることも確認している。

(3)両テーマに共通する成果

両テーマ間の連携によって以下の成果を生むことができた。

- ・本事業の進展に伴い、研究拠点としての丸山眞男記念比較思想研究センター及び丸山眞男文庫の意義を一層明らかにできた。そのことによって、学外からの反響も大きく、丸山研究及び日本思想史研究の世界的な活性化が起きている。後述(副次的効果)のように、国内だけでも幾つもの多様な社会的反響がその意義を実証している。
- ・研究者、教育者、その他一般の社会人など幅広い参加者ととともに、中間シンポジウム、国際シンポジウムを中心とした公開の場で議論を深めることができた。とくに、海外の研究者を招いて丸山文庫の意義を議論した国際シンポジウムによって、丸山および日本思想史の国際的な研究拠点の基盤が確実に構築されたことを確認できた。
- ・参加研究者の研究指導等を受けた若手研究者が個人の研究成果を多数生み出すことができた。丸山文庫所蔵未発表原稿の翻刻に寄与したこと等から、今後、丸山文庫を研究基盤として発展、維持してゆく担い手になりゆくことが期待される。

<課題となった点>

本事業期間中に完了せず残った課題は以下の通りである。

- ・丸山眞男文庫草稿類デジタルアーカイブの完成
具体的には、5,000点にのぼる草稿資料類のうち、メタデータの入力は約2,600点にとどまり、本事業期間中に入力作業を完了できなかった。その理由は、原稿・メモや研究会・集会での配布資料など資料が

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

膨大であり、且つ多様なそれぞれの資料が組み合わせられているなど複雑な内容をもっていることによる。丸山と交流をもった人物や土地など関連する他のアーカイブでの資料調査も進め、今後これらの方法によりメタデータを更に充実させ、研究基盤として発展してゆくことが求められる。

- ・本事業期間中に刊行予定であった『丸山眞男集 別集』第 4 巻・第 5 巻の刊行
丸山文庫所蔵資料の調査の進展によって、丸山の自筆草稿・メモ、音声資料、編集者によるテープ起し資料、関連図書への書込みなど、予想をはるかにこえた多様且つ広範な資料を確認したためである。事業終了後も刊行に向けた作業を継続してゆく。なお上述のように、第 4 巻・第 5 巻に収録予定の諸資料は、すでにデジタルアーカイブまたは本学図書館内で資料を公開するとともに、関連資料の主なものには『センター報告』で翻刻を行った。
- ・本事業期間中に刊行予定であった『丸山眞男講義録』続巻の完成
本文を確定する上でもっとも重要な講義原稿が他年度の講義や論文で再使用されたため散在等しており、原稿や引用史料などの推定や資料の特定に困難をきわめたためである。但し、今秋には刊行予定である。
- ・書簡(来簡類)リストの作成が発信者名のみ情報にとどまったこと
その要因は、発信者の数が膨大であり、調査の過程でまず個人を特定することを重視したためである。今後、このリストをもとにして、更に調査・整理を進め、発信者別の通数や書簡ごとの日付などを特定し、より詳しい書簡リストへと発展させてゆくことが可能である。また将来的には、必要な手続きを経て、一般公開してゆくことも今後求められる。

<自己評価の実施結果と対応状況>

本学は本事業の意義を積極的に捉え直し、課題を明確にすることで、研究事業の進展と研究基盤の形成・強化、並びに本学のリベラル・アーツ教育の一層の展開に役立てるため、補助事業期間の中間年である平成 26 年度及び最終年度である平成 28 年度に本事業の自己点検・評価を行った。

実施体制として、本事業の研究支援体制を大学として支えている丸山眞男記念比較思想研究センター委員会を自己点検・評価委員会の専門委員会と位置づけ、①本事業の目的の達成度及び研究拠点形成の可否、②研究目的を達成するための組織体制の適切性、③研究テーマごとに定めた年度別研究計画の進捗状況と成果の適切性、④補助対象経費の配分と活用の適切性について点検した。その結果を自己点検・評価委員会にて検討、確認し、報告書を本学公式サイトにて公開している。

平成 26 年度自己点検・評価では、既に研究拠点として形成されつつあるが、テーマ間、研究者間の連携強化及び若手研究者の育成に留意することを課題と認識し、残余の事業期間において、両テーマ責任者が連絡を密にして連携強化を図り、新任のPD、研究補助員を統督して実務運営により育成を図った。

平成 28 年度自己点検・評価では、本事業により形成された研究拠点の今後の安定的運営と充実、それを支える体制に関し検討していくことを確認した。

なお、補助事業経費については、バーチャル書庫及びデジタルアーカイブ構築を課題とするテーマ 2 の経費配分割合が高いことについて点検し、テーマ 2 の研究目的の達成には、設備の整備、人的資源の投入、システムの構築が必要であることから、適正且つ不可欠の措置であると評価した。また、求める条件より更に性能の優れた新機種のスキャナを申請時の 1/3 の価額で購入したこと、パッケージではなく本事業に適合したシステムのバーチャル書庫及びデジタルアーカイブを申請時より抑えた費用で構築したこと、同システムに関する日英・日中翻訳サイトを制作・公開できたことが、本事業全体の研究成果の充実、海外の研究者を含む利用者の利便性増進、広範且つ多様な研究リソースの提供に資することとなり、費用対効果の面で適切であると評価した。

<外部(第三者)評価の実施結果と対応状況>

実施体制として、本事業の領域を専門分野とする有識者 3 名に外部評価委員を委嘱し、外部評価委員会を設置した。外部評価委員は立教大学名誉教授 栗原彬氏、東京大学名誉教授 佐藤慎一氏、東京大学大学院教授 吉見俊哉氏に依頼した。同委員会委員は、本学自己点検・評価報告書及び資料による書面審査、本学での面談調査及び丸山眞男文庫の見学を経て外部評価を行った。

委員からは、「本事業によって、丸山文庫所蔵資料(貴重資料)の安全管理とインターネットによる同文庫の「開かれた体制」という両立困難な 2 つの課題を高い水準で達成しており、図書類・草稿類・書簡類等を収蔵する総合的且つ世界的な近代日本思想研究の拠点の基盤が形成された。そして、21 世紀の教養と

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

知のあり方に大きく貢献した」との評価を受けた。具体的には、優れた点として以下が挙げられた。①デジタルアーカイブによって、世界中の人々が丸山の思考の過程をたどり、丸山の出した結論をその過程に即して一層内在的に理解することを可能にしたこと。丸山の「思想空間」に身を置く「場所」が構築され、政治思想、比較思想、教養、芸術・文化研究等の広範な知的世界への探求の道を拓いたこと。②多様な分野にまたがる優れた研究者たちの綿密な連携に基づく共同研究が、新しい丸山解釈の可能性を生み出したこと。③世界的な視野の中で、丸山に至る近代日本の知識人の系譜とともに、丸山の思想と世界の同時代の思想との共時性、交信性、相応性、相克性を明らかにしたこと。そうした本事業の成果が、思想史とアーカイブ技術が結ばれる先駆的な例となり得ること。

以上の成果をふまえた上で、国際的な研究拠点を更に充実・発展させていくため、次の段階に向けた努力課題が提示された。①丸山文庫所蔵の図書類(丸山の書込み)、草稿類、書簡類をデジタル形式で統合的に関連づけ、横断的に検索・可視化可能な仕組みを構築すること。②国際的な近代日本思想研究の拠点として情報を発信していくため、詳細なデータも英語化すること。③資料収集の迅速化(高齢化していく関係者への配慮)と多角化。④本事業の成果を継承し発展させてゆく若い研究者のネットワークの拡大。⑤研究者のみならず若い世代の育成のためのコンテンツの充実(丸山論の目録等)。⑥以上の課題に取り組んでいくための国・民間の助成金の確保。

これらの課題に対し、研究・事業計画を検討の上、積極的に外部資金獲得のための申請を予定している。

<研究期間終了後の展望>

本事業により研究拠点が形成された今、補助事業期間終了後も、丸山眞男記念比較思想研究センターを中心として、研究を継続する。研究方針及び活動計画は以下の通りである。①丸山眞男文庫所蔵の丸山を中心とする知識人の書簡類の調査・整理を進め、リストの公開、重要度の高い書簡の翻刻・公刊を行い、20世紀知識人の教養観の解明を継続する。②新たな資料の整理・調査・デジタル化・公開により、デジタルアーカイブの充実を図る。③草稿類の翻刻を継続し、『丸山眞男集 別集』第4巻・第5巻を公刊する。④『丸山眞男講義録』続巻を公刊する。⑤本事業の成果を発信するため、講演会・公開研究会・公開授業の実施、丸山眞男記念比較思想研究センター報告を年1回公刊する。

また、上記の外部評価の際の努力課題とされた点に関して、本事業の成果とその学術的意義を検証し、広く社会的に共有していくために、今後も研究や議論を継続していく。テーマ1の代表的成果である論文集については、2017年度の公開研究会において合評会を開催し、他の研究者や一般の社会人と議論を行っていく予定である。テーマ2のデジタルアーカイブを中心とした研究拠点としての丸山文庫の拡充については、丸山眞男記念比較思想研究センター委員会にて取り組み内容をさらに検討すると共に、積極的に外部資金獲得を図る。

<研究成果の副次的効果>

以上の事業と成果に対する評価は、丸山文庫所蔵資料(事業期間中の出版物を含む)を用いた諸研究の公刊、多数のメディアによる紹介記事等によって知ることができる。

【丸山文庫所蔵資料を活用した諸研究】

本事業が順次行っている丸山文庫所蔵資料のデジタル化、また草稿資料類のデジタルアーカイブ上の画像公開、バーチャル書庫の公開、未公刊資料の翻刻・公刊等により、丸山文庫所蔵資料へのアクセスが容易且つ多様なものになった。その副次的効果として、当該資料類を活用した研究成果が、本事業参加研究者の外からも現われている。その主なものとして、以下のものが挙げられる。

- ・橋本春美「東京女子大学図書館における学習支援の取組と丸山眞男文庫」『人文会 news』第116号、2013年10月
- ・西村稔「知識人と「教養」(1)～(6)—丸山眞男の教養思想—」『岡山大学法学会雑誌』第64巻第1号～第66巻第2号、2014年9月～2016年12月
- ・権左武志「日本ナショナリズムの呪縛とその克服」『現代思想』2014年8月号
- ・奥波一秀「〈知性の愚者〉であること」同前
- ・大久保健晴「丸山眞男における明治思想史研究の展開」The Asan Institute for Policy Studies 主催シンポジウム“Maruyama Masao and the East Asian Thoughts : Modernity, Democracy and Confucianism”、

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

韓国・牙山市、2014年7月

- ・松本礼二(編)『政治の世界 他十篇』岩波文庫、2014年
- ・古矢旬(編)『超国家主義の論理と心理 他八篇』岩波文庫、2015年
- ・奥波一秀「丸山眞男における音楽と啓蒙の問題」『図書』2015年1月号
- ・阪本尚文「丸山眞男と八月革命(1) 東京女子大学丸山眞男文庫所蔵資料を活用して」『行政社会論集』第28巻第1号、2015年
- ・田中久文ほか「丸山眞男の再評価(日本倫理学会第65回大会 主題別討議報告)」『倫理学年報』第64集、2015年3月
- ・高山大毅『近世日本の「礼楽」と「修辞」——荻生徂徠以後の「接人」の制度構想』東京大学出版会、2016年
- ・黒川みどり「丸山眞男における「開かれた社会」——竹内好との対話をとおして」『思想』2017年3月号

なお、草稿類デジタルアーカイブ、バーチャル書庫には、公開後、国内外からアクセスがある。これらの利用者によって、今後も国内外より様々な研究成果が発表されていくことが期待される。以下は両ウェブサイトへの国別アクセス件数である。

- ・草稿類デジタルアーカイブ(集計:2015年7月25日～2017年3月31日)
日本 4,823 件、英国 113 件、米国 85 件、韓国 38 件、中国 27 件、台湾 27 件、ドイツ 22 件(以下略)
- ・バーチャル書庫(集計:2015年3月9日～2017年3月31日)
日本 8,771 件、米国 1,600 件、英国 352 件、ロシア 263 件、中国 236 件、韓国 142 件、ドイツ 138 件(以下略)

【本事業の成果をふまえたその他の事業・企画等】

さらに、上記の成果等を受け、以下のように丸山文庫所蔵資料を用いた新たな企画を通じて、研究成果を一般の人びとや学生に還元した。

(1)丸山眞男生誕百年記念企画の開催(2014年10月～12月)

杉並区立西荻図書館と共同で、「丸山眞男生誕百年」企画を開催した。西荻図書館に資料(複製)を提供し展示を行った。また開催期間中、西荻図書館で関連の講演*187を行った。

(2)「丸山眞男没後20周年記念 東女生が挑む 丸山眞男展」の開催(2016年7月～10月)

本学図書館と共同で、「東女生が挑む 丸山眞男展」を開催した。本学大学院生・学部学生を対象とした教養教育を目的とする企画で、図書館内で丸山眞男の生涯や著作を学生に広く紹介すると共に、丸山著作・関連著作を読む機会をつくった。3か月程度の短期間であったが、関連のセミナーには約30名の学生が集まり、6点の書評が集まった。学外の来訪者からも好評を博した。

(3)「東京女子大学「丸山眞男研究プロジェクト」完結記念 丸山眞男ブックフェア」の開催(2017年1月)

紀伊國屋書店新宿本店が「東京女子大学「丸山眞男研究プロジェクト」完結記念 丸山眞男ブックフェア」を開催した。開催期間中のトークイベント(同月21日)では、本事業の成果をふまえて、一般の人びとに丸山著作と丸山文庫の魅力と意義を伝えた。

【丸山著作の文庫化、テレビ番組等による一般的普及】

(1)本事業期間中、既刊の丸山著作の文庫化が進められ、その中で丸山文庫所蔵資料が多く用いられた。以下の刊行物がそれである。松本礼二編『政治の世界 他十篇』(前掲書)、古矢旬編『超国家主義の論理と心理 他八篇』(前掲書)、松沢弘陽・植手通有・平石直昭編『定本 丸山眞男回顧談』(上・下、岩波現代文庫、2016年)*157*158。これらによって、丸山著作が学生など一般の人びとに多く読まれ、丸山文庫所蔵資料が活用されていくことが期待される。

(2)2014年7月19日、NHK教育(Eテレ)にて「2014年度「知の巨人たち」第3回 民主主義を求めて—政治学者 丸山眞男—」*186が放映され、その中で、丸山文庫所蔵資料や本事業の概要も紹介された。その他、本事業期間中、Academic Resource Guide(2015年3月10日、同年6月13日)、Current Awareness Portal(2015年3月11日、同年6月10日、2016年7月21日)、IT Media NEWS(2015年3月11日)、朝日新聞(2014年10月20日、2015年1月18日、2016年10月2日、同年11月2日(夕))、紀伊國屋書店ニュース(2015年10月13日)、聖教新聞(2016年10月5日)、東京大学新聞(2015年8月4日)、毎日新聞(2015年1月25日、2016年8月23日(夕))、読売新聞(2015年2月15日、2016年8月15日)など多数の新聞・ニュースレター等*189*190*193*194で事業の成果が紹介された。そのことによって、講演会等への参加者が増す等、丸山眞男及び丸山文庫への関心を大きく喚起している。

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 教養 (2) 知識人 (3) 国際的コミュニティ
 (4) 学際的研究 (5) 丸山眞男 (6) 政治
 (7) デジタル化 (8) 未公刊資料

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

テーマ1:

- *1. 雨田英一「戦時下における伝統と教育の問題(下)長谷川如是閑『日本教育の伝統』(1943年12月)『東京女子大学紀要論集』第63巻第1号、225～248頁、2012年9月、査読無。
- 2. 安藤信廣「20世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—」プロジェクトについて『東京女子大学学報』第645号(2012年度第2号)、6頁、2012年9月、査読無。
- 3. 安藤信廣「20世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—」プロジェクトについて『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第8号、3～9頁、2013年3月、査読無。
- *4. 安藤信廣「幕末の『イソップ物語』の読まれ方—中国との比較にも触れて—」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第8号、98頁、2013年3月、査読無。
- 5. 苅部直「丸山眞男 独裁者にはユーモア感覚がない」『文藝春秋』第91巻第1号(2013年1月号)、282～284頁、2013年1月、査読無。
- *6. 安藤信廣・黒沢文貴「2012年度 丸山眞男研究プロジェクト活動報告」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第9号、3～7頁、2014年3月、査読無。
- 7. 安藤信廣「東アジアにおける近代化と思想」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第9号、193～197頁、2014年3月、査読無。
- *8. 小檜山ルイ「佐々城豊寿とその時代(1)」『キリスト教文化』第1号(2013年春号)、136～154頁、2013年4月、査読無。
- *9. 小檜山ルイ「佐々城豊寿とその時代(2)」『キリスト教文化』第2号(2013年秋号)、118～136頁、2013年10月、査読無。
- 10. 孫歌(鈴木将久訳)「「ノーマル・パラノイア」と現代社会」『世界』第842号(2013年4月号)、153～164頁、2013年4月、査読無。
- *11. 茂木敏夫「伝統的秩序をどう踏まえるか——東アジア新秩序の構想をめぐって」『国際問題』第623号(2013年7・8月合併号)、42～52頁、2013年7月、査読無。
- *12. 茂木敏夫「『海国図志』成立の背景——18-19世紀中国の社会変動と経世論」『東京女子大学紀要論集』第64巻第1号、87～102頁、2013年9月、査読無。
- *13. 湯浅成大「10年後の9・11——「過防備国家」の誕生と「日常生活リアリズム」の支配」『東京女子大学紀要論集』第64巻第2号、2014年3月、195-218頁、査読無。
- *14. 油井大三郎「アメリカ史における分裂と統合」『アジア太平洋研究』第38号、3～17頁、2013年11月、査読有。
- *15. 雨田英一「長谷川如是閑「伝統と教育——教育者としての自覚——」(『改造』1952年7月)」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第10号、102頁、2015年3月、査読無。
- *16. 安藤信廣・黒沢文貴「丸山眞男研究プロジェクト活動報告(2013年4月～2014年12月)」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第10号、4～8頁、2015年3月、査読無。

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

17. 區建英「嚴復思想中的國民形成與“中學”價值重構」、陳鼓應主編『道家文化研究』第 28 輯(嚴復專輯)、三聯書店、2015 年 1 月、315~332 頁。
- *18. 區建英「丸山と中国の近代的思考の模索——私の世代の体験を中心に——」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 10 号、31~37 頁、2015 年 3 月、査読無。
- *19. 苺部直「技術・美・政治——三木清と中井正一——」『政治思想研究』第 14 号、65~81 頁、2014 年 5 月、査読無。
20. 苺部直「日本思想史の名著を読む(1)福澤諭吉『文明論之概略』」『ちくま』第 526 号、18~21 頁、2015 年 1 月、査読無。
21. 苺部直「日本思想史の名著を読む(2)北畠親房『神皇正統記』」『ちくま』第 527 号、18~21 頁、2015 年 2 月、査読無。
22. 苺部直「日本思想史の名著を読む(3)横井小楠『国是三論』」『ちくま』第 528 号、18~21 頁、2015 年 3 月、査読無。
- *23. 苺部直「政治のための教養—丸山眞男百歳」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 10 号、9~19 頁、2015 年 3 月、査読無。
24. 苺部直「講演録「福澤語」入門:「公德」と「怨望」」『三田評論』第 1187 号、54~64 頁、2015 年 3 月、査読無。
- *25. 小檜山ルイ「佐々城豊寿とその時代(3)」『キリスト教文化』第 3 号(2014 年春号)、161~186 頁、2014 年 4 月、査読無。
- *26. 小檜山ルイ「近代日本における人格と女性——中村正直と新渡戸稲造を通じて」『ピューリタニズム研究』第 9 号、22~31 頁、2015 年 3 月、査読無。
27. 小檜山ルイ「書評 古屋安雄『私の歩んだキリスト教——神学者の回想』」『ピューリタニズム研究』第 9 号、80 頁、2015 年 3 月、査読無。
- *28. 小檜山ルイ「「知識人」と「家庭」問題——文化生活運動をヒントとして」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 10 号、98~99 頁、2015 年 3 月、査読無。
29. 孫歌「言語の生命力を求めて(特集 人類への希望のメッセージ:世界からの提言)」『神奈川大学評論』第 80 号、53~57 頁、2015 年 3 月、査読無。
- *30. 茂木敏夫「近代以降の東アジアにおける地域秩序の変動と中国」『ワセダアジアレビュー』第 16 号、42~46 頁、2014 年 8 月、査読有。
- *31. 茂木敏夫「中華世界秩序論の新段階」『東京女子大学紀要論集』第 65 巻 1 号、46~61 頁、2014 年 9 月、査読無。
32. 茂木敏夫「(杉並区内大学公開講座 2014 年度前期)近代中国のアジア論を読む——日本とのかかわりを通じて」『東京女子大学学報』第 653 号(2014 年度第 2 号)、2~3 頁、2014 年 9 月、査読無。
- *33. 茂木敏夫「『海国図志』成立の背景——中国社会の変動と経世論」(「洋学史学会設立 20 周年・蛮書和解御用 200 周年記念シンポジウム」特集)『洋学』第 19・20 合併号、147~165 頁、2015 年 2 月、査読無。
- *34. 茂木敏夫「コメント(黒沢報告を聴いて)」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 10 号、88~94 頁、2015 年 3 月、査読無。
35. 茂木敏夫「文明の名づけ方:中華とその周辺」(国際シンポジウム「姓名とエスニシティ」特集)『マテシス・ユニヴェルサリス』第 16 巻第 2 号、87~103 頁、2015 年 3 月、査読無。
- *36. 湯浅成大「書評 久保文明・高畑昭男・東京財団「現代アメリカ」プロジェクト編著『アジア回帰するアメリカ:外交安全保障政策の検証』」『アメリカ太平洋研究』第 15 号、241~246 頁、2015 年 3 月、査読無。
- *37. 油井大三郎「丸山眞男とアメリカ文化の交錯」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 10 号、20~30 頁、2015 年 3 月、査読無。

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

- *38. 油井大三郎・區建英・趙星銀「コメントへの応答」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 10 号、54～58 頁、2015 年 3 月、査読無。
- *39. 渡辺浩「どんな「男」になるべきか：江戸と明治の男性理想像とその変化」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 10 号、95～97 頁、2015 年 3 月、査読無。
- *40. 雨田英一「「特別の教科 道徳」導入をめぐる現今の問題」『東京女子大学紀要論集』第 66 巻第 1 号、187～208 頁、2015 年 9 月、査読無。
- *41. 安藤信廣・黒沢文貴「丸山眞男研究プロジェクト活動報告(2015 年 1 月～12 月)」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 11 号、3～6 頁、2016 年 3 月、査読無。
42. 苅部直「日本思想史の名著を読む(4) 荻生徂徠『政談』」『ちくま』第 529 号、20～23 頁、2015 年 4 月、査読無。
- *43. 苅部直「大正・昭和の歴史学と平泉史学(特集 藝林会第八回学術研究大会)」『藝林』第 64 巻第 1 号、82～92 頁、2015 年 4 月、査読無。
44. 苅部直「日本思想史の名著を読む(5) 古事記」『ちくま』第 530 号、18～21 頁、2015 年 5 月、査読無。
45. 苅部直「日本思想史の名著を読む(6) 伊藤仁斎『童子問』」『ちくま』第 531 号、24～27 頁、2015 年 6 月、査読無。
46. 苅部直「日本思想史の名著を読む(7) 日蓮『立正安国論』」『ちくま』第 532 号、30～33 頁、2015 年 7 月、査読無。
47. 苅部直「日本思想史の名著を読む(8) 中江兆民『三酔人経綸問答』」『ちくま』第 533 号、28～31 頁、2015 年 8 月、査読無。
48. 苅部直「日本思想史の名著を読む(9) 教育勅語」『ちくま』第 534 号、28～31 頁、2015 年 9 月、査読無。
49. 苅部直「「厄介」と愛想を尽かすのはまだ早い 政治の本当の意味と魅力を知ろう(特集 知性の力を取り戻すために)」『Journalism』第 304 号、14～18 頁、2015 年 9 月、査読無。
50. 苅部直「日本思想史の名著を読む(10) 葉隠」『ちくま』第 535 号、24～27 頁、2015 年 10 月、査読無。
51. 苅部直「日本思想史の名著を読む(11) 吉野作造「憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず」」『ちくま』第 536 号、30～33 頁、2015 年 11 月、査読無。
52. 苅部直「巻頭言 マルティプル・ジャパン——多様化する「日本」」『アステイオン』第 83 巻、14～15 頁、2015 年 11 月、査読無。
- *53. 苅部直「日本思想史の名著を読む(最終回) 丸山眞男『忠誠と反逆』」『ちくま』第 537 号、30～33 頁、2015 年 12 月、査読無。
54. 苅部直「解釈改憲としてのデモクラシーとポピュリズムへの警鐘：吉野作造の洞察」『中央公論』第 130 年第 1 号、104～111 頁、2016 年 1 月、査読無。
55. 小檜山ルイ「佐々城豊寿とその時代(4)」『キリスト教文化』第 5 号(2015 年春)、174～202 頁、2015 年 4 月、査読無。
56. 小檜山ルイ「佐々城豊寿とその時代(5)」『キリスト教文化』第 6 号(2015 年秋)、193～230 頁、2015 年 10 月、査読無。
- *57. 小檜山ルイ「同性愛婚と「良心」の自由」『青淵』第 802 号、2016 年 1 月、8～9 頁、査読無。
- *58. アンドリュー・バーシェイ「異論者たちの近代：丸山眞男、ロバート・ペラーの日本思想研究に関する覚え書(特集 戦後史の召喚)」『アーナ』第 18 号、58～71 頁、2015 年 11 月、査読無。
- *59. 眞壁仁「神の宿るところ：徳川後期の釈奠における迎送神と神像」『学会会報』第 915 号、53～62 頁、2015 年 11 月、査読無。
60. 茂木敏夫「中華世界の構造と中国近代思想史の語り方」(「前近代東アジアの国際関係・境界領域・領土」特集)『新しい歴史学のために』第 286 号、48～61 頁、2015 年 5 月、査読無。

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

61. 茂木敏夫「中華の秩序とその近代：中華世界秩序論の新段階再論」『中国哲学研究』第 28 号、106～126 頁、2015 年 6 月、査読有。
- *62. 茂木敏夫「丸山眞男の論説と中国、東アジア——考察事始め」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 11 号、43～44 頁、2016 年 3 月、査読無。
- *63. 茂木敏夫「武人帝王誕生の時代」『比較文化』第 62 号、7～8 頁、2016 年 3 月、査読無。
64. 油井大三郎「歴史的思考力の育成と高大連携(特集 高校世界史から市民の世界史へ)」『歴史評論』第 781 号、54～63 頁、2015 年 5 月、査読無。
65. 油井大三郎「世界史に逆行する「集団的自衛権」論の陥穽(小特集 歴史学の課題としての戦後日本／平和主義：集団的自衛権問題を見すえて)」『歴史学研究』第 934 号、2～9、38 頁、2015 年 8 月、査読無。
- *66. 渡辺浩・川口雄一・播磨崇晃・山辺春彦(翻刻・解題)「丸山眞男「昭和 25 年度 政治学史講義草稿」」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 11 号、48～98 頁、2016 年 3 月、査読無。
- *67. 雨田英一「民主主義と教育～18 歳選挙権時代を迎えて(始業講演)」『東京女子大学学報』第 660 号(2016 年度第 1 号)、3 頁、2016 年 5 月、査読無。
68. 雨田英一「民主主義と教育～18 歳選挙権時代を迎えて(始業講演)」『東京女子大学紀要論集』(第 67 巻第 1 号)、187～204 頁、東京女子大学、2016 年 9 月、査読無。
- *69. 安藤信廣・黒沢文貴「丸山眞男研究プロジェクト活動報告(2016 年 1 月～17 年 3 月)」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 12 号、3～8 頁、2017 年 3 月、査読無。
- *70. 區建英「「独立自尊」と「他者感覚」の伝承——福沢諭吉と丸山眞男の「思想共働」の予備考察——」『新潟国際情報大学国際学部紀要』創刊号、63～73 頁、2016 年 4 月、査読無。
- *71. 區建英「丸山眞男與福澤諭吉思想中的「獨立自尊」與「他者感覺」」『臺灣東亞文明研究學刊』第 13 卷第 1 期(總第 25 期)、107～146 頁、2016 年 6 月、査読有。
- *72. 苅部直「「国連中心主義」の起源」『レヴァイアサン』第 58 号、2016 年 4 月、49～67 頁、査読無。
73. 苅部直・吉村萬壺・福嶋亮大「創作合評(第 482 回)「伯爵夫人」蓮實重彦「宝石」小林エリカ「地鳴き、小鳥みたいな」保坂和志」『群像』第 71 巻第 5 号、320～332 頁、2016 年 5 月、査読無。
74. 苅部直「根源的な思考と時代の省察」『アステイオン』第 84 号、248～252 頁、2016 年 5 月、査読無。
75. 苅部直「日本のデモクラシー、生誕百周年——「憲政の本義」論文を改めてよむ」『吉野作造研究』第 12 号、2016 年 4 月、19～28 頁、査読無。
- *76. 苅部直「「遊び」とデモクラシー——南原繁と丸山眞男の大学教育論」『年報政治学』2016 年度第 1 号、2016 年 7 月、104～116 頁、査読無。
77. 小檜山ルイ「ヒラリーの奮闘」『青淵』第 808 号、2016 年 7 月、10～11 頁、査読無。
78. 小檜山ルイ「佐々城豊寿とその時代(6)」『キリスト教文化』第 7 号(2016 年春)、2016 年 5 月、査読無。
- *79. 小檜山ルイ「外交実践の歴史のための新しいアプローチ(特集 第 22 回国際歴史学会議済南大会——(ジョイント・セッション)」『歴史学研究』第 943 号、24～27 頁、2016 年 4 月、査読無。
- *80. 小檜山ルイ「近代日本の「知識人」における「ホーム」論の系譜」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 12 号、26～29 頁、2017 年 3 月、査読無。
81. 眞壁仁「書評：政治思想史(日本・アジア)月脚達彦『福沢諭吉と朝鮮問題：「朝鮮改造論」展開と蹉跎』(東京大学出版会、2014 年)・月脚達彦『福沢諭吉の朝鮮：日朝清関係のなかの「脱亜』』(講談社、2015 年)」『年報政治学』2016 年度第 1 号、244～247 頁、2016 年 7 月、査読無。
- *82. 茂木敏夫「「冊封・朝貢」の語られる場——中華世界秩序論の新段階三論(特集「冊封・朝貢」体制再考——近代東アジアの国際秩序をめぐる外交と言説)」『東アジア近代史』第 20 号、102～121 頁、2016 年 6 月、査読無。
- *83. 湯浅成大「丸山先生の英文原稿の翻訳にあたって」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 12 号、30 頁、2017 年 3 月、査読無。

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

*84. 湯浅成大(翻訳・解題)「丸山眞男「戦前日本のマルクス主義」英文原稿」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 12 号、113～98 頁、2017 年 3 月、査読無。

85. 渡辺浩「思想の言葉(特集 荻生徂徠——「差異」と「共存」——)」『思想』第 1112 号、2～7 頁、2016 年 12 月、査読無。

テーマ2:

86. 河野有理「『明六雑誌』とその時代」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 8 号、123～124 頁、2013 年 3 月、査読無。

87. 中田喜万「新井白石『折たく柴の記』を読む」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 8 号、125～127 頁、2013 年 3 月、査読無。

88. 平石直昭「丸山文庫所蔵の自筆講義ノート(50 年代後半)について」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 8 号、99 頁、2013 年 3 月、査読無。

89. 平石直昭・佐藤美奈子「丸山文庫の整理・公開——2011 年 4 月以降の進展と展望」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 8 号、105～106 頁、2013 年 3 月、査読無。

90. 平石直昭「丸山眞男文庫」『日本近代文学館』第 253 号、6 頁、2013 年 5 月、査読無。

91. 黒沢文貴「日露戦争への道: 三国干渉から伊藤の外遊まで」『外交史料館報』第 28 号、33～57 頁、2014 年 3 月、査読有。

*92. 河野有理「「正統と異端」研究会をめぐって」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 9 号、10～13 頁、2014 年 3 月、査読無。

93. 土合文夫「丸山眞男の楽譜蔵書をめぐって」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 9 号、8 頁、2014 年 3 月、査読無。

*94. 宮村治雄・山辺春彦・金子元・川口雄一(翻刻・解題)「丸山眞男「戦中「東洋政治思想史」講義原稿」」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 8 号、10～97 頁、2013 年 3 月、査読無。

95. 平石直昭「第 15 回丸山眞男文庫記念講演会 丸山眞男の思想世界——デモクラシー論との関連において—— 加藤節」『東京女子大学学報』第 651 号(2013 年度第 4 号)、8～9 頁、2014 年 3 月、査読無。

96. 平石直昭・川口雄一「2012 年度 丸山文庫所蔵資料の公開と利用状況」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 9 号、186～187 頁、2014 年 3 月、査読無。

*97. 松沢弘陽(翻刻・解説)「丸山眞男「近代的ナショナリストとしての福沢先生(1950 年講演・速記稿)」」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 9 号、141～150 頁、2014 年 3 月、査読無。

*98. 松沢弘陽・山辺春彦「丸山眞男文庫所蔵の福沢諭吉に関する草稿・速記稿類の概況」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 9 号、179～185 頁、2014 年 3 月、査読無。

*99. 宮村治雄・山辺春彦(翻刻・解題)「丸山眞男「1947 年度・1945 年度「東洋政治思想史」講義原稿」」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 9 号、36～140 頁、2014 年 3 月、査読無。

*100. 河野有理「Legitimacy の浮上とその隘路 「正統と異端」研究会と丸山政治学」『現代思想』第 42 巻第 11 号(2014 年 8 月増刊号)、176～188 頁、2014 年 8 月、査読無。

101. 黒沢文貴「再考・戦後の日本近代史認識—昭和戦前期の「戦争の構造」と「歴史の構造」をめぐって—」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 10 号、73～87 頁、2015 年 3 月、査読無。

102. 黒沢文貴「近現代日本と四つの「開国」」、『第一次世界大戦とその影響』(『軍事史学』第 50 巻第 3・4 合併号)、7～16 頁、2015 年 3 月、査読有。

103. 黒沢文貴「江戸・明治期の日露関係: ロシアイメージを中心に」『日本歴史』第 802 号、53～72 頁、2015 年 3 月、査読有。

104. 中田喜万「天皇概念の歴史的展開——その称号・系図・史論」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 10 号、100～101 頁、2015 年 3 月、査読無。

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

105. 平石直昭「現代世界の中で丸山眞男をどう読むか」『東京女子大学学報』第 653 号(2014 年度第 2 号)、6～7 頁、2014 年 9 月、査読無。
106. 平石直昭・山辺春彦「丸山文庫所蔵資料の公開と利用状況」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 10 号、115～116 頁、2015 年 3 月、査読無。
107. 松沢弘陽「丸山眞男の思想世界」『図書』第 786 号(2014 年 8 月号)、1 頁、2014 年 8 月、査読無。
108. 黒沢文貴「歴史手帖 ユネスコ世界記憶遺産の登録申請に向けて:「舞鶴への生還」の挑戦」『日本歴史』第 808 号、41～44 頁、2015 年 9 月、査読有。
- *109. 黒沢文貴・山辺春彦・川口雄一(翻刻・解題)「丸山眞男「正統と異端」研究会報告原稿」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 11 号、106～197 頁、2016 年 3 月、査読無。
110. 黒沢文貴「学会創立 50 周年に寄せて」『軍事史学』(特集 総力戦と冷戦 : 20 世紀の戦争 : 軍事史学会創立 50 周年記念号)第 51 巻第 4 号、1～3 頁、2016 年 3 月、査読無。
111. 河野有理「書評 平野敬和著『丸山眞男と橋川文三:「戦後思想」への問い』」『日本思想史学』第 47 号、252～258 頁、2015 年 9 月、査読無。
112. 河野有理「書評 中野目徹著『明治の青年とナショナリズム : 政教社・日本新聞社の群像』」『史学雑誌』第 125 編第 2 号、264～273 頁、2016 年 2 月、査読無。
- *113. 土合文夫「丸山眞男と文人たちとの交流」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 11 号、198～208 頁、2016 年 3 月、査読無。
114. 平石直昭「福沢諭吉の東洋政略論の研究史—敗戦直後から 1970 年代まで—」『福沢諭吉年鑑』第 42 号、3～23 頁、2015 年 12 月、査読無。
115. 平石直昭「丸山眞男・1956 年度講義の概要」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 11 号、46～47 頁、2016 年 3 月、査読無。
- *116. 平石直昭・川口雄一・金子元(翻刻・解説)「丸山眞男「丸山眞男・李沢厚対談メモ」」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 11 号、99～105 頁、2016 年 3 月、査読無。
117. 平石直昭・川口雄一「丸山文庫所蔵資料の公開と利用状況」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 11 号、212～214 頁、2016 年 3 月、査読無。
118. 宮村治雄・井田進也「アジアの思想を読む : 中江兆民を中心に」『アジア太平洋研究』第 40 号、85～140 頁、2015 年 11 月、査読無。
119. 黒沢文貴「舞鶴引揚記念館とユネスコ世界記憶遺産への登録」、『歴史と地理 日本史の研究』第 253 号、51～54 頁、2016 年 6 月、査読無。
120. 黒沢文貴・山辺春彦・川口雄一(翻刻・解題)「丸山眞男「正統と異端」研究会報告原稿(2)」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 12 号、97～87 頁、2017 年 3 月、査読無。
121. 河野有理「「公民政治」の残影——蠟山政道と政治的教養のゆくえ——」『年報政治学』2016 年度第 1 号、2016 年 7 月、53～76 頁、査読無。
122. 中田喜万「丸山眞男没後 20 周年記念国際シンポジウムを開催」『東京女子大学学報』第 663 号(2016 年度第 4 号)、8 頁、2016 年 12 月、査読無。
123. 中田喜万・川口雄一「丸山眞男没後 20 周年記念国際シンポジウム「新しい丸山眞男像の発見 その世界大の視圏と交流のなかで」開催概要」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 12 号、2017 年 3 月、査読無。
124. 平石直昭・川口雄一「丸山文庫所蔵資料の公開と利用状況」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 12 号、80～82 頁、2017 年 3 月、査読無。
- *125. 松沢弘陽・川口雄一(翻刻・校注)「吉野源三郎書簡 丸山眞男宛 補遺 4 点」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 12 号、59～62 頁、2017 年 3 月、査読無。
126. 宮村治雄「名言の舞台 : 福沢諭吉」『Voters』第 33 号、18 頁、2016 年 9 月、査読無。

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

127. 宮村治雄「中江兆民『三酔人経綸問答』再読—「理学」と「経綸」の間で—」『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 12 号、22～25 頁、2017 年 3 月、査読無。

<図書>

テーマ1:

- 1(*128). 荻部直・黒住真・佐藤弘夫・中田喜万ほか『日本思想史講座 3 近世』ペリかん社、2012 年 12 月、総 401 頁。
- 2(*129). 荻部直『秩序の夢 政治思想論集』筑摩書房、2013 年 3 月、総 368 頁。
- 3(*130). 安田常雄・大串潤児・孫歌ほか『シリーズ戦後日本社会の歴史 3 社会を問う人びと』岩波書店、2012 年 12 月、総 298 頁。
- 4(*131). 油井大三郎ほか『越境する 1960 年代 米国・日本・西欧の国際比較』彩流社、2012 年 5 月、総 394 頁。
5. 山極晃・百瀬宏・河合秀和・油井大三郎ほか『国際関係論と歴史学の間で』彩流社、2012 年 11 月、総 465 頁。
- 6(*132). 趙景達・原田敬一・村田雄二郎・安田常雄・河野有理・區建英ほか『講座東アジアの知識人第 1 巻 文明と伝統社会』有志舎、2013 年 12 月、総 362 頁。
7. 荻部直ほか『岩波講座 日本の思想 6 秩序と規範—「国家」のなりたち』岩波書店、2013 年 6 月、総 320 頁。
8. 荻部直・河野有理・松田宏一郎ほか『日本思想史講座 4 近代』ペリかん社、2013 年 6 月、総 413 頁。
9. 石田一良・石毛忠・荻部直・平石直昭ほか『日本思想史事典』東京堂出版、2013 年 9 月、総 534 頁。
10. 荻部直『物語岩波書店百年史 3 「戦後」から離れて』岩波書店、2013 年 10 月、総 304 頁。
- 11(*133). 荻部直ほか『岩波講座 日本の思想 3 内と外—対外観と自己像の形成』岩波書店、2014 年 2 月、総 344 頁。
12. 荻部直・吉田裕ほか『岩波講座 日本歴史 15 近現代 1』岩波書店、2014 年 2 月、総 306 頁。
- 13(*134). 油井大三郎、藤田進ほか『21 世紀の課題—グローバルゼーションと周辺化—』有志舎、2013 年 8 月、総 335 頁。
14. 油井大三郎ほか『「3・11」と歴史学』有志舎、2013 年 10 月、総 366 頁。
- 15(*135). 荻原稔・區建英ほか『戦後日本思想と東アジア—知識人と民衆—』同志社大学人文科学研究 所(人文研ブックレット No.49)、2015 年 3 月、総 59 頁。
16. 川満信一・仲里効・孫歌ほか『琉球共和社会憲法の潜勢力』未来社、2014 年 6 月、総 306 頁。
- 17(*136). 湯山トミ子・宇野重昭・孫歌ほか『アジアからの世界史像の構築』東方書店、2014 年 6 月、総 329 頁。
18. 孫歌『北京便り 中国の真の面影』岩波書店、2015 年 1 月、224 頁。
- 19(*137). Andrew E. BARSHAY, etc., *INTERNATIONAL ENCYCLOPEDIA OF THE SOCIAL AND BEHAVIORAL SCIENCES*, Elsevier, March 2015, 2nd ed.
- 20(*138). 長谷川雄一・茂木敏夫ほか『アジア主義思想と現代』慶應義塾大学出版会、2014 年 7 月、総 330 頁。
- 21(*139). 古田元夫・油井大三郎・小檜山ルイほか『世界史認識における「アメリカ」の問題(第 14 回日韓・韓日歴史家会議報告書)』日韓歴史家会議組織委員会、2015 年 3 月、総 158 頁。
22. 劉曉琴・區建英ほか『嚴復與近代中國社會思潮』天津人民出版社、2015 年、総 619 頁。
23. 御厨貴・山岡龍一・荻部直ほか『政治学へのいざない』放送大学教育振興会、2016 年 3 月、総 283 頁。
- 24(*140). 三浦信孝・荻部直ほか『戦後思想の光と影』風行社、2016 年 3 月、総 359 頁。
25. 孫江・藤永壯・茂木敏夫ほか『竹村民郎著作集完結記念論集』三元社、2015 年 12 月、総 247 頁。

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

26. 油井大三郎『未完の占領改革』増補新装版、東京大学出版会、2016年3月、総336頁。
- 27(*141). 安藤信廣・雨田英一・小檜山ルイ・茂木敏夫・湯浅成大・油井大三郎・區建英・苅部直・孫歌・アンドリュー・バーシェイ・渡辺浩・眞壁仁・黒沢文貴・土合文夫・松沢弘陽・中田喜万・平石直昭・宮村治雄・河野有理ほか『20世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—』(全事業報告書)東京女子大学比較文化研究所附置丸山眞男記念比較思想研究センター、2017年3月、総269頁。
 (*142)安藤信廣「幕末期知識人の対外認識—吉田松陰と『聖武記附録』『伊娑菩喩言』—」
 (*143)雨田英一「戦後日本における民主化と教養・文化・教育をめぐる論議—丸山眞男を中心として—」
 (*144)小檜山ルイ「「人格」という概念—その系譜をめぐる試論—」
 (*145)油井大三郎「丸山眞男とアメリカ文化の交錯」
 (*146)區建英「孫文「民権主義」の時空転換と創造—丸山思想史学の方法から—」
 (*147)苅部直「村岡典嗣と丸山眞男」
 (*148)渡辺浩「丸山眞男における「原理」・「主体」・「秩序」」
 (*149)眞壁仁「神の憑依するところ—昌平覺釈奠改革と徳川日本の儒礼受容—」
 平石直昭「丸山眞男文庫の意義と可能性について」
 孫歌「丸山眞男の「三民主義」観」
 アンドリュー・E・バーシェイ「プロテスタント的想像力—丸山眞男、ロバート・ベラー、そして日本思想研究に関する覚書—」
 黒沢文貴「コメント」
 平石直昭・ヴォルフガング・ザイフェルト・孫歌・金錫根・ジャック・ジョリ・黒沢文貴・中田喜万「討論・質疑応答」
 黒沢文貴・川口雄一「丸山眞男文庫所蔵資料の調査研究とデジタルアーカイブ構築」
 安藤信廣・黒沢文貴(編集)「全事業一覧」
 安藤信廣「あとがき」
- 28(*150). 區建英ほか『傳承與創新 紀念國父孫中山 150 歲誕辰』上冊、國家書店發行、2016年5月、総296頁。
29. 苅部直(編集・解説)『憲政の本義 吉野作造デモクラシー論集』中公文庫、2016年5月、総288頁。
30. 五百旗頭真・中西寛・苅部直ほか『高坂正堯と戦後日本』中央公論新社、2016年5月、総286頁。
- 31(*151). 小檜山ルイ・関口すみ子ほか『近代日本のキリスト教と女子教育』教文館、2016年8月、総190頁。
32. 區建英(翻訳・序文)『福沢諭吉と日本近代化』北京師範大学出版社、2017年(編集中)。
- テーマ2:
33. 黒沢文貴『大戦間期の宮中と政治家』みすず書房、2013年2月、総348頁。
34. 黒沢文貴『二つの「開国」と日本』東京大学出版会、2013年2月、総271頁。
35. 小林道彦・黒沢文貴ほか『日本政治史のなかの陸海軍』ミネルヴァ書房、2013年2月、総258頁。
36. 河野有理『田口卯吉の夢』慶應義塾大学出版会、2013年4月、総335頁。
37. 下斗米伸夫・黒沢文貴ほか『日口関係 歴史と現代』法政大学出版局、2015年3月、総210頁。
38. 河野有理・相原耕作・高山大毅ほか『近代日本政治思想史』ナカニシヤ出版、2014年9月、総399頁。
39. 平石直昭(編集)『丸山眞男座談セレクション(上)』岩波現代文庫、2014年11月、総382頁。
40. 平石直昭(編集・解説)『丸山眞男座談セレクション(下)』岩波現代文庫、2014年12月、総370頁。
- 41(*153). 平石直昭・黒沢文貴・山辺春彦・川口雄一(編集・翻刻・解説・文献解題)『丸山眞男集 別集 第1巻』岩波書店、2014年12月、総425頁。
- 42(*154). 平石直昭・黒沢文貴・山辺春彦・川口雄一(編集・翻刻・解説・文献解題)『丸山眞男集 別集 第2巻』岩波書店、2015年3月、総416頁。
43. 五百旗頭真・黒沢文貴ほか『日口関係史』東京大学出版会、2015年9月、総725頁。
44. 松澤裕作・河野有理ほか『近代日本のヒストリオグラフィー』山川出版社、2015年11月、総240頁。

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

- 45(*155). 平石直昭・黒沢文貴・山辺春彦・川口雄一(編集・翻刻・解説・文献解題)『丸山眞男集 別集 第3巻』岩波書店、2015年6月、総412頁。
46. 黒住真・片岡龍・澤井啓一・平石直昭ほか『日本思想史講座 5 方法』ペリカン社、2015年12月、600頁。
47. 河野有理『偽史の政治学——新日本政治思想史』白水社、2016年12月、総252頁。
48. 米原謙・中田喜万・河野有理ほか『政治概念の歴史的展開 9 「天皇」から「民主主義」まで』晃洋書房、2016年9月、総300頁。
- 49(*156). 松沢弘陽・植手通有(編集)『丸山眞男集』別巻、新訂増補、岩波書店、2015年7月、総276頁。
- 50(*157). 松沢弘陽・植手通有・平石直昭(編集・補注)『定本 丸山眞男回顧談 上』岩波現代文庫、2016年7月、総404頁。
- 51(*158). 松沢弘陽・植手通有・平石直昭(編集・補注・解説)『定本 丸山眞男回顧談 下』岩波現代文庫、2016年8月、総368頁。

<学会発表>

テーマ1:

1. 茂木敏夫「東アジアにおける朝貢秩序の実態とその語り方」
東北亜歴史財団東アジア研究フォーラム国際学術会議、韓国・延世大学、2012年11月
2. 茂木敏夫「中華世界秩序論与其新階段」
華東師範大学現代中国与世界聯合研究中心「中華民族的国族形成与認同」学術研討会、中国・華東師範大学、2013年3月
3. 區建英「嚴復における国民形成と〈中学〉価値の再構築」
北京大学主催・嚴復シンポジウム、中国・北京大学、2013年10月
4. 區建英「中日近代と西洋：嚴復と福沢諭吉の異文化受容と思想構築」
台湾大学主催・東亜思想交流史シンポジウム、台湾・台湾大学、2013年11月
5. 茂木敏夫「「境界」認識の変容と活用——国境把握をめぐる知識の現在形」に対するコメント
東アジア近代史学会、東京・中央大学、2013年6月
6. 茂木敏夫「普遍と個別——近現代東アジアにおける秩序構想の語り方」
近代日本政治外交史研究会、東京・大東文化大学、2013年12月
7. 茂木敏夫「戦後体制の東アジア的文脈——中国から考える」
戦後体制研究会、東京・学士会館、2014年1月
8. 小檜山ルイ「明治期における『人格』と女性——中村正直と新渡戸稲造を通じて」
日本ピューリタニズム学会、東京・青山学院大学、2014年6月
9. Rui Kohiyama, “From the Indian Ocean to the Pacific: Missionary Hill Stations in India,”
International Conference on “New Directions in Indian Ocean Studies,” on Feb. 28, 2015 at Osmania University Centre for International Programs, Hyderabad in collaboration with Indian Council of World Affairs, New Delhi.
10. 茂木敏夫「前近代の中華秩序及其近現代的展開——從可能性及限界思考」
東亜視域中的「中国／中華」意識国際学術研討論会、台湾・国立台湾大学、2014年7月
11. 渡辺浩「丸山眞男の儒教解釈について」
The Asan Institute for Policy Studies 主催シンポジウム“Maruyama Masao and the East Asian Thoughts : Modernity, Democracy and Confucianism”、韓国・牙山市、2014年7月
12. 眞壁仁「日本政治思想史における(市)「民」:意味の変容と課題」
「グローバル化時代のシティズンシップ」研究会、京都・京都大学、2015年2月

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

13. 安藤信廣「庾信から趙王へ—「周趙王集」の全体像と価値—」
中国化学会研究例会、東京・大妻女子大学、2015 年
 14. 安藤信廣「北周趙王「道会寺碑文」と仏教再興—聖武天皇宸幹『雜集』の価値—」、
東アジア仏教研究会大会、2015 年 12 月
 15. 區建英「孫中山“民権主義”的時空轉換与創造」
国際シンポジウム「儒家道統与民主共和」、台湾・台湾師範大学、2015 年 9 月
 16. 區建英「孫中山“民権主義”的实践和創造」
国際シンポジウム「近代文化与近代中国」、中国・北京師範大学、2015 年 10 月
 17. 區建英「孫中山的“民族主義”和“大亞洲主義”」
国際シンポジウム「伝承と創新: 紀念孫中山誕生 150 周年」、台湾・台湾国父紀念館、2015 年 11 月
 18. Rui Kohiyama, Organizer and Comments for “New Approaches to History of Diplomatic Practices,”
22nd International congress of Historical Sciences on Aug. 26, 2015 in Jinan, China.
 19. Rui Kohiyama, “Women’s History at Cutting Edge in Japan,”
22nd International congress of Historical Sciences on Aug. 26, 2015 in Jinan, China.
 20. 小檜山ルイ「プロテスタントの女性宣教師経営の学校」
キリスト教史学会 2015 年度大会シンポジウム「近代日本のキリスト教「女子教育」再考——その歴史に見る多様性をめぐって」、東京・東京女子大学、2015 年 9 月
 21. 茂木敏夫「「冊封・朝貢」の語られる場」
東アジア近代史学会・2015 年度大会シンポジウム「「冊封・朝貢」体制再考——近代東アジアの国際秩序をめぐる外交と言説」、東京・東京女子大学、2015 年 6 月
 22. 渡辺浩「フランス革命、明治革命、中国革命——トクヴィルで考える “The French, Meiji and Chinese Revolutions in the Conceptual Framework of Tocqueville”」
現代政治思想研究部会（「東欧・中国の民主化とトクヴィルおよびシュンペーターの政治理論」科研費・基盤研究(C)、研究代表者：松本礼二）、東京・早稲田大学、2015 年 9 月
 23. Rui Kohiyama, “The 1927 U.S.-Japan Doll Exchange: the Latter-Day Form of Women’s Foreign Mission Endeavor and its Reverberations in the Japanese Empire,”
2016 Annual Conference, Organization of American Historians on Apr. 8, 2016 in Providence, RI.
 24. 茂木敏夫「中国的秩序の理念——その特徴と近現代における問題化」
人間文化研究機構「北東アジア地域研究推進事業」島根県立大学北東アジア地域研究センター拠点プロジェクト第 1 回国際シンポジウム「近代的空間の形成とその影響——北東アジア 胚胎期の諸相」、島根・島根県立大学、2016 年 11 月
- テーマ2:
25. 河野有理「「政体」論は何を終わらせたのか? : 明治初期「政体」論の位相」
「日中両国における西欧立憲主義の継受主体にみる受容の態様」研究会（科研費・基盤研究(B)、研究代表者：高見勝利）、2015 年 2 月
 26. 河野有理「秘密と情実 西周の政治思想をめぐって」
島根県立大学西周研究会・同北東アジア研究会共催第 13 回西周シンポジウム「明六社と西周」、島根・島根県立大学、2015 年 11 月
 27. 平石直昭「西周と徂徠学」
島根県立大学・西周研究会主催、津和野町・同教育委員会後援「第 14 回西周シンポジウム」、島根・津和野町民センター、2016 年 11 月

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

●シンポジウム 2 回

1(*159). 中間シンポジウム、「現代世界の中で丸山眞男をどう読むか」、2014年6月27日、東京女子大学 24号館2階24202教室、

<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/project/maruyama-project/meeting/symposium1/>

(*160) 苅部直「政治のための教養——丸山眞男百歳」

(*161) 油井大三郎「丸山眞男とアメリカ文化の交錯」

(*162) 區建英「丸山と中国の近代的思考の模索—私の世代の体験を中心に—」

趙星銀「韓国における丸山眞男」

聶莉莉「油井報告・區報告・趙報告へのコメント」

(*163) 油井大三郎・區建英・趙星銀「コメントへの応答」

2(*164). 国際シンポジウム、「新しい丸山眞男像の発見 その世界大の視圏と交流のなかで」、2016年10月14日、東京女子大学 23号館1階23101教室、

<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/project/maruyama-project/meeting/symposium2/>

(*165) 平石直昭「丸山眞男文庫の意義と可能性について」

ヴォルフガング・ザイフェルト「丸山眞男とドイツの思想・学問—戦前、戦中、そして戦後—」

(*166) 孫歌「丸山眞男の「三民主義」観」

(*167) アンドリュウ・バーシェイ「プロテスタント的想像力—丸山眞男、ロバート・ベラー、そして日本思想研究に関する覚書—」

金錫根「韓国における丸山眞男の思想・学問の受けとめられ方」

(*168) 黒沢文貴「コメント」

(*169) 平石直昭・ヴォルフガング・ザイフェルト・孫歌・金錫根・ジャック・ジョリ・黒沢文貴・中田喜万「討論・質疑応答」

●研究会 13 回

1. 第1回研究会、2012年10月12日、東京女子大学 23号館2階23300室、

<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/project/maruyama-project/meeting/seminar1/>

(*170) 平石直昭「丸山文庫所蔵の自筆講義ノート(50年代後半)について」

(*171) 安藤信廣「幕末の『イソップ物語』の読まれ方—中国との比較にも触れて—」

2. 第2回研究会、2012年12月14日、東京女子大学本館1階021会議室、

<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/project/maruyama-project/meeting/seminar2/>

(*172) 土合文夫「丸山眞男の楽譜蔵書をめぐって」

清水靖久「丸山眞男と米国」

3(*173). 第3回研究会、2013年4月26日、東京女子大学1号館3階131会議室、

<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/project/maruyama-project/meeting/seminar3/>

小檜山ルイ「『知識人』と『家庭』問題—文化生活運動をヒントとして」

4(*174). 第4回研究会、2013年6月28日、東京女子大学1号館3階131会議室

苅部直「村岡典嗣と丸山眞男・研究スケッチ」

5. 第5回研究会、2013年11月29日、東京女子大学1号館3階131会議室、

<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/project/maruyama-project/meeting/seminar5/>

中田喜万「天皇概念の歴史的展開—その称号・系図・史論」

6(*175). 第6回研究会、2014年2月12日、東京女子大学1号館3階131会議室、

<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/project/maruyama-project/meeting/seminar6/>

雨田英一「長谷川如是閑「伝統と教育～教育者としての自覚～」(『改造』1952年7月)」

7. 第7回研究会、2014年4月22日、東京女子大学1号館3階131会議室

近藤邦康「1989年3月20日丸山眞男・李沢厚対談」

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

- 8(*176). 第 8 回研究会、2014 年 11 月 28 日、東京女子大学 1 号館 3 階 131 会議室、
<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/project/maruyama-project/meeting/seminar8/>
 土合文夫「丸山眞男と文人たちとの交流」
- 9(*177). 第 9 回研究会、2015 年 2 月 13 日、東京女子大学本館 1 階 021 会議室、
 眞壁仁「神の憑依するところ：昌平黌釈奠改革と徳川日本の儒礼受容」
- 10(*178). 第 10 回研究会、2015 年 5 月 29 日、東京女子大学 1 号館 3 階 131 会議室、
<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/project/maruyama-project/meeting/seminar10/>
 茂木敏夫「丸山眞男の論説と中国、東アジア——考察事始め」
11. 第 11 回研究会、2015 年 7 月 24 日、東京女子大学 1 号館 3 階 131 会議室、
<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/project/maruyama-project/meeting/seminar11/>
 奥波一秀「丸山眞男と音楽にまつわるいくつかの謎」
- 12(*179). 第 12 回研究会、2015 年 10 月 2 日、東京女子大学 1 号館 3 階 131 会議室、
<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/project/maruyama-project/meeting/seminar12/>
 平石直昭「丸山眞男・1956 年度講義の概要」
- 13(*180). 第 13 回研究会、2016 年 5 月 25 日、東京女子大学 1 号館 3 階 131 会議室、
<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/project/maruyama-project/meeting/seminar13/>
 湯浅成大「丸山先生の英文翻訳にあたって」

●公開研究会 5 回

- 1(*181). 第 1 回公開研究会、2013 年 3 月 5 日、東京女子大学 24 号館 2 階 24202 教室、
<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/project/maruyama-project/meeting/openseminar1/>
 河野有理「「正統と異端」研究会をめぐって」
2. 第 2 回公開研究会、東京女子大学 24 号館 2 階 24201 教室、
<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/project/maruyama-project/meeting/openseminar2/>
 黒沢文貴「再考・戦後の日本近代史認識——昭和戦前期の「戦争の構造」と「歴史の構造」をめぐって」
 茂木敏夫「黒沢文貴「再考・戦後の日本近代史認識——昭和戦前期の「戦争の構造」と「歴史の構造」をめぐって」へのコメント」
3. 第 3 回公開研究会、2014 年 9 月 22 日、東京女子大学 24 号館 2 階 24202 教室、
<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/project/maruyama-project/meeting/openseminar3/>
 渡辺浩「どんな「男」になるべきか：江戸と明治の男性理想像とその変化」
4. 第 4 回公開研究会、2016 年 2 月 19 日、東京女子大学 24 号館 2 階 24202 教室、
<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/project/maruyama-project/meeting/openseminar4/>
 宮村治雄「中江兆民『三酔人経綸問答』再読—「理学」と「経綸」の間で—」
5. 第 5 回公開研究会、2016 年 6 月 17 日、東京女子大学 24 号館 2 階 24201 教室、
<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/project/maruyama-project/meeting/openseminar5/>
 小檜山ルイ「近代日本の「知識人」における「ホーム」論の系譜」

●講演会 3 回

1. 2012 年度講演会、2012 年 7 月 5 日、東京女子大学 24 号館 2 階 24202 教室、
<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/project/maruyama-project/meeting/lecture14/>
 アンドルー・ゴードン「世界に向けて東日本大震災を記録する——危機アーカイブの効用と構築のための課題」
2. 2013 年度講演会、2013 年 12 月 6 日、東京女子大学 24 号館 2 階 24202 教室、
<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/project/maruyama-project/meeting/lecture15/>
 加藤節「丸山眞男の思想世界——デモクラシー論との関連において」
3. 2015 年度講演会、2015 年 11 月 27 日、東京女子大学 23 号館 2 階 23201 教室、
<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/project/maruyama-project/meeting/lecture16/>
 古矢旬「丸山眞男と「アメリカ問題」」

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

●インターネットでの公開

1. プロジェクト紹介 HP

「文部科学省・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 20 世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—」

<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/project/maruyama-project/>

2(*182). 丸山眞男文庫バーチャル書庫

<http://maruyamabunko.twcu.ac.jp/shoko/>

3(*183). 丸山眞男文庫草稿類デジタルアーカイブ

<http://maruyamabunko.twcu.ac.jp/archives/>

4. 『20 世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—』(全事業報告書)

<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/institute/maruyama-center/publication/achievement/>

5. 「自己点検・評価報告書」および「外部評価報告書」

<http://office.twcu.ac.jp/univ/about/gp/valutaion/index.html>

<これから実施する予定のもの>

●公開研究会

1. 第 6 回公開研究会、2017 年 7 月 22 日、東京女子大学 23 号館 1 階 23101 教室

『20 世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—』合評会

●講演会

1. 2017 年度講演会、2017 年 10 月 7 日、東京女子大学 24 号館 2 階 24202 教室

渡辺浩「個人」とは何か、「個性」とは何か 清朝中国と徳川日本で考える」

14 その他の研究成果等

1(*184). 苅部直・黒川創:対談「丸山眞男生誕百年」『週刊読書人』第 3033 号、1~2 面、2014 年 3 月

2(*185). 川本隆史・苅部直:対談「丸山眞男を問い直す」『現代思想』第 42 巻第 11 号(2014 年 8 月増刊号)、32~48 頁、2014 年 8 月

3. 苅部直・半藤一利・外岡秀俊:討論「徹底討論 朝日新聞はもっと危機意識を深めて公正な報道と調査報道に取り組み言論の自由を掘り崩すものと対峙せよ(特集 朝日新聞問題を徹底検証する)」

『Journalism』第 298 号、6~32 頁、2015 年 3 月

4(*186). 平石直昭ほか:インタビュー「2014 年度「知の巨人たち」第 3 回 民主主義を求めて—政治学者丸山眞男—」NHK 教育(E テレ)、2014 年 7 月

5(*187). 平石直昭:講演「丸山眞男の今日的意義について」丸山眞男生誕百年記念講演会、東京・西荻図書館、2014 年 11 月

6. 宮村治雄・井田進也:ワークショップ「アジアの思想を読む—中江兆民を中心に—」、東京・成蹊大学(アジア太平洋研究センター)、2015 年 2 月

7(*188). 茂木敏夫:公開講座「(杉並区内大学公開講座 2014 年度前期)近代中国のアジア論を読む—日本とのかかわりを通じて」全 6 回、東京女子大学、2014 年

8(*189). 安藤信廣・川口雄一:インタビュー「東京女子大学丸山眞男文庫 草稿類デジタルアーカイブ、バーチャル書庫公開」『紀伊國屋書店ニュース』第 17 巻第 10 号、5~7 頁、2015 年 10 月

9. 苅部直・植村和秀・昆野伸幸ほか:討論「平成 26 年度藝林会学術大会 相互討論(特集 藝林会第八回学術研究大会)」『藝林』第 64 巻第 1 号、93~121 頁、2015 年 4 月

10. 孫歌:インタビュー「インタビュー記録(2)」、宇野重昭・江口伸吾・李暁東編『中国式発展の独自性と普

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

遍性「中国模式」の提起をめぐる『国際書院、2016年3月、347～372頁

11(*190). 平石直昭:インタビュー「他者と対話できる思想へ——「優れて現代的な思想家」丸山眞男に迫る」『東京大学新聞』第2727号(2015年8月4日号)、2面、2015年8月

12(*191). 眞壁仁:ワークショップ「徳川日本における東アジアの学術受容」、「明清交替後の江戸儒学界:校勘・輯佚・考拠学とその精神」、北海道・北海道大学、2015年8月

13(*192). 區建英:シリーズ講座(北京大学1学期)「丸山眞男の思想史学」、中国・北京大学、2016年

14. 荻部直・山崎正和:インタビュー「鋭く感じ、柔らかく考えてきた30年」『アステイオン』第84号、236～243頁、2016年5月

15(*193). 平石直昭:インタビュー「没後20年 色あせぬ丸山思想」『読売新聞』第50493号(2016年8月15日号)、15面、2016年8月

16(*194). 平石直昭・川口雄一:インタビュー「没後20年 丸山眞男——思索の軌跡を知る——」『聖教新聞』第19197号(2016年10月5日号)、7面、2016年10月

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

「なぜ今丸山眞男なのかについて明らかにされたい。また経費の見積もりを合理的に行っていただきたい。」

<「選定時」に付された留意事項への対応>

(1)「選定時」に付された上記の留意事項「なぜ今丸山眞男か」に応えるため、21世紀における教養のあり方にとって丸山眞男の思想がもつ意味を持続的に探求してきた。中間時におけるその成果が、現代世界において丸山がどう読まれ、またそれがどのような意味をもっているかをテーマとした中間シンポジウム(平成26年6月開催)での諸報告である。ここでの議論から、現代の日本・中国・韓国及びアメリカを含む国際社会において、丸山の思想・学問ならびにその方法が重要な意義をもつものとして受けとめられ、新たな教養としての可能性をもつことを確認した。

次いで、『丸山眞男集 別集』刊行開始、デジタルアーカイブ公開を経た後に開催した国際シンポジウム(平成28年10月開催)において、丸山の世界大の読書経験、人格的交流、政治認識を内在的に検討し、議論を深めた。そこで提起した「新しい丸山眞男像」は、人間への洞察によって、世界の知性・思想家と切り結ぶ思想であり、その思想が教養として広く共有されてゆく意義を明らかにすることができた。

最後に、多様な分野にまたがる参加研究者が最終成果として執筆した論文において、丸山の思想・学問が学際的に研究を深めてゆく意義と可能性をもつこと、丸山の思想・学問への理解は丸山文庫所蔵資料によって更に深めてゆけることを明らかにできた。以上の点については前記項目11(4)「研究成果の概要」のテーマ1(平成26年度・28年度)および「優れた成果が上がった点」を参照。

(2)「経費の見積もりを合理的に行うこと」については、次のように対応した。本事業では、デジタルアーカイブ構築に向けた丸山眞男文庫資料のデジタル化のため、画像データ撮影機器を研究設備として申請した。機種選定にあたり①読み取り解像度400dpi以上、②高速スキャニング(1秒)を条件としたが、平成24年2月申請時には、条件を満たす機種は事業計画額6,000千円となる一機種以外は見当たらなかった。しかし、平成24年8月に上記の条件を満たし、さらに性能に優れた新機種が安価(1,984千円)で販売されたため、文部科学省に相談のうえ当該新機種へ選定機種を変更し、申請要件を満たさなくなった私立大学等研究設備等整備費については申請を行わなかった。平成25年度に当該新機種を法人負担で購入し、滞りなく事業遂行に資することができている。さらに、バーチャル書庫及びデジタルアーカイブ構築にあたり、両者のシステム上の連携が必要であるため、一括して構築可能な業者への業務委託を検討してきた。本事業申請時には対象となる業者は非常に限られ、またシステムはパッケージであったが、平成26年の業者選定時には数社より見積を取得することができ、申請時の見積額より構築費が約60万円、平成28年度以降の運用費が年間約40万円低い金額で、本事業に合わせたシステムの構築が可能となり、事業全体の研究成果の充実に資することができた。その他の補助対象経費も、合理的に見積もり、執行した。

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

<「中間評価時」に付された留意事項>

分野の特性かもしれないが査読論文が少ないのが気になる。また、成果の概要で「新しい認識が開かれている」(p1)や優れた研究成果の「教養の在り方を取り出した」(p7)、今後期待される研究成果で「今後の方向性を提示できる」(p8)などと抽象的に記載されている部分について、主たるファインディングスを例示するなど、より具体的なイメージがわくように記載すべきではないか。

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

参加研究者の執筆論文は、査読を受けているものもあるが、査読無の論文であっても本事業全体における意義の重要性は査読有のものと同様変わらない。出版社や雑誌編集者、学会等からの強い要請にもとづき執筆・発表しているものが数多く含まれているからである。

テーマ1では、上述の各研究者の論文業績の蓄積の上に、最終年度に論文集を作成、発行した。前掲「研究成果の概要」の「優れた成果が上がった点」でも記したように、丸山著作・丸山文庫の活用が、日本政治思想史をはじめとして文学、歴史学、教育学、中国研究、アメリカ研究等の諸分野を横断する研究・教育の発展に寄与すること、丸山の思想・学問の体系的・内在的理解を可能にすることを実証し、同時に、丸山をはじめとする近現代の日本および海外の知識人の思想に内在する教養と、彼らが形成した思想的系譜または交流(コミュニティ)の内容を明らかにした本論文集の学術的意義は大きい。他方、テーマ2は、2014年度末以降、バーチャル書庫・草稿類デジタルアーカイブの構築・公開をはじめ、『丸山眞男集別集』の公刊等を進めてきた。ここにも査読の有無に関わらない資料翻刻等の諸成果が生かされている。国内外でこれらの成果が活用され、本事業の内外で新たな研究成果を生んでいることは上述の通りである。

以上のような各研究者の論文や共同の事業など重要な意義をもつ多数の研究成果が評価され、文庫版丸山著作の刊行等の副次的な事業に結びつき、国内外より大きな反響と今後の期待とが示されるにいたった。テーマ1およびテーマ2の5年間にわたる研究成果とその水準は、第三者による厳正な外部評価の際にも優れた点として評価された。

法人番号	131060
プロジェクト番号	S1201016

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備 考
		法 人 担 負	私 学 助 成	共同研 究機関 負担	受託 研究等	寄付金	その他()	
平成 24 年度	施 設	0						
	装 置	0						
	設 備	0						
	研究費	9,770	6,776	2,994				
平成 25 年度	施 設	0						
	装 置	0						
	設 備	1,984	1,984					
	研究費	9,780	7,027	2,753				
平成 26 年度	施 設	0						
	装 置	0						
	設 備	0						
	研究費	11,977	7,576	4,401				
平成 27 年度	施 設	0						
	装 置	0						
	設 備	0						
	研究費	11,794	7,288	4,506				
平成 28 年度	施 設	0						
	装 置	0						
	設 備	0						
	研究費	12,333	8,267	4,066				
総 額	施 設	0	0	0	0	0	0	
	装 置	0	0	0	0	0	0	
	設 備	1,984	1,984	0	0	0	0	
	研究費	55,654	36,934	18,720	0	0	0	
総 計	57,638	38,918	18,720	0	0	0		

法人番号

131060

- 17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)
(施設) (私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。) (千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
4号館4階 丸山眞男記念 比較思想研究センター	平成14	26 m ²	1	1			
図書館地階 丸山眞男 文庫室	平成11	74 m ²	1	6			

私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m²

- (装置・設備) (私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。) (千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
				h			
				h			
				h			
(研究設備)				h			
				h			
				h			
				h			
(情報処理関係設備)				h			
ブックスキャナー	平成25	マイクロテック社 BookShot3600	一式	2325.5	1,984		私学助成
				h			
				h			
				h			
				h			

- 18 研究費の支出状況 (千円)

年 度	平成	24	年度	テーマ1
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	221	消耗品費	158	PCソフト、プリンターインク、文具
		図書資料費	33	書籍
		その他	30	
光 熱 水 費	0		0	
通 信 運 搬 費	33	郵便費	30	資料等郵送費
		電話料	3	電話料金
印 刷 製 本 費	555	印刷費	555	活動報告書作成、パンフレット印刷、コピー代
旅 費 交 通 費	200	教育研究出張費	200	資料収集・調査旅費、学外研究者招聘旅費
報 酬 ・ 委 託 料	93	原稿講演謝礼	93	招聘講師謝礼他
計	1,102			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼務職員)	1,505	研究プロジェクトの補助	1,505	時給1200円、年間時間数1079時間、実人数2人
教 育 研 究 経 費 支 出				
計	1,505			
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教 育 研 究 用 機 器 備 品				
図 書				
計	0			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

法人番号	131060
------	--------

年 度	平成 24 年度 テーマ2		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	1,269	消耗品費	502
		図書資料費	453
		その他	314
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	81	郵便費	77
		電話料	4
印 刷 製 本 費	111	印刷費	111
旅 費 交 通 費	586	教育研究出張費	586
報 酬 ・ 委 託 料	277	原稿講演謝礼	140
		保守契約費	137
賃 借 料	49	賃借料	49
計	2,373		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	1,997	研究プロジェクトの補助	1,997
教育研究経費支出	0		
計	1,997		
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		
図 書	0		
計	0		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		
ポスト・ドクター	0		
研究支援推進経費	0		
計	0		

年 度	平成 25 年度 テーマ1		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	154	消耗品費	99
		図書資料費	55
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	109	郵便費	107
		電話料	2
印 刷 製 本 費	654	印刷費	654
旅 費 交 通 費	256	教育研究出張費	256
報 酬 ・ 委 託 料	151	原稿講演謝礼	151
計	1,324		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	1,438	研究プロジェクトの補助	1,438
教育研究経費支出	0		
計	1,438		
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		
図 書	0		
計	0		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		
ポスト・ドクター	0		
研究支援推進経費	0		
計	0		

法人番号

131060

年 度	平成 25 年度 テーマ2		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	386	消耗品費	225
		図書資料費	161
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	48	郵便費	46
		電話料	2
印 刷 製 本 費	29	印刷費	29
旅 費 交 通 費	178	教育研究出張費	178
報 酬 ・ 委 託 料	672	原稿講演謝礼	477
		保守契約費	173
		その他	22
賃 借 料	49	賃借料	49
計	1,362		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	2,593	研究プロジェクトの補助	2,255
		丸山文庫資料のデジタル化	338
教 育 研 究 経 費 支 出	0		
計	2,593		
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	1,984	教育研究用機器備品費	1,984
図 書	0		
計	1,984		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		
ポスト・ドクター	0		
研究支援推進経費	0		
計	0		

年 度	平成 26 年度 テーマ1		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	324	消耗品費	61
		図書資料費	243
		その他	20
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	113	郵便費	110
		電話料	3
印 刷 製 本 費	866	印刷費	866
旅 費 交 通 費	283	教育研究出張費	165
		海外出張旅費	118
報 酬 ・ 委 託 料	212	原稿講演謝礼	212
計	1,798		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	776	研究プロジェクトの補助	776
教 育 研 究 経 費 支 出	0		
計	776		
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	0		
図 書	0		
計	0		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		
ポスト・ドクター	0		
研究支援推進経費	0		
計	0		

法人番号

131060

年度	平成 26 年度 テーマ2			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な使途	金額	主な内容
教育研究経費支出				
消耗品費	1,248	消耗品費	181	PCソフト、HDD他PC用品、文具
		図書資料費	825	書籍
		その他	242	ノートPC1台、タブレットPC2台
光熱水費	0		0	
通信運搬費	33	郵便費	30	資料等郵送費
		電話料	3	電話料金
印刷製本費	109	印刷費	109	コピー代
旅費交通費	180	教育研究出張費	180	研究会等参加交通費
報酬・委託料	1,937	業務委託費	1,597	バーチャル書庫開設費
		保守契約費	340	検索システム保守料、ブックスキャナー保守料
賃借料	50	賃借料	50	検索システムレンタルサーバ料
計	3,557			
アルバイト関係支出				
人件費支出 (兼務職員)	2,773	研究プロジェクトの補助	1,918	時給 1200円,年間時間数 1225時間,実人数 3人
		丸山文庫資料のデジタル化	855	時給 870円～920円,年間時間数 930時間 実人数 5人
教育研究経費支出	0			
計	2,773			
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	0			
図書	0			
計	0			
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	0			
ポスト・ドクター	3,073	研究プロジェクトの補助	3,073	学外1名
研究支援推進経費	0			
計	3,073			

年度	平成 27 年度 テーマ1			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な使途	金額	主な内容
教育研究経費支出				
消耗品費	229	消耗品費	83	プリンターインク、文具
		図書資料費	137	書籍
		その他	9	丸山講演会弁当
光熱水費	0		0	
通信運搬費	97	郵便費	95	資料等郵送費
		電話料	2	電話料金
印刷製本費	763	印刷費	763	活動報告書作成、コピー代
旅費交通費	698	教育研究出張費	485	丸山講演会講師旅費、国外研究者招聘滞在費
		海外出張旅費	213	国外研究者招聘渡航費
報酬・委託料	145	原稿講演謝礼	145	丸山講演会講師謝礼
計	1,932			
アルバイト関係支出				
人件費支出 (兼務職員)	431	研究プロジェクトの補助	431	時給 1200円,年間時間数 317時間,実人数 2人
教育研究経費支出	0			
計	431			
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	0			
図書	0			
計	0			
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	0			
ポスト・ドクター	0			
研究支援推進経費	0			
計	0			

法人番号

131060

年 度	平成 27 年度 テーマ2		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	1,725	消耗品費	339
		図書資料費	1,218
		その他	168
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	28	郵便費	26
		電話料	2
印 刷 製 本 費	28	印刷費	28
旅 費 交 通 費	446	教育研究出張費	446
報 酬 ・ 委 託 料	1,740	業務委託費	1,518
		保守契約費	205
		その他	17
賃 借 料	0		0
計	3,967		
ア ル パ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	2,454	研究プロジェクトの補助	1,760
		丸山文庫資料のデジタル化	694
教育研究経費支出	0		
計	2,454		
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		
図 書	0		
計	0		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		
ポスト・ドクター	3,010	研究プロジェクトの補助	3,010
研究支援推進経費	0		
計	3,010		

年 度	平成 28 年度 テーマ1		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	36	消耗品費	11
		図書資料費	0
		その他	25
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	226	郵便費	222
		電話料	4
印 刷 製 本 費	1,073	印刷費	1,073
旅 費 交 通 費	465	教育研究出張費	336
		海外出張旅費	129
報 酬 ・ 委 託 料	188	原稿講演謝礼	188
計	1,988		
ア ル パ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	862	研究プロジェクトの補助	862
教育研究経費支出	0		
計	862		
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		
図 書	0		
計	0		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		
ポスト・ドクター	0		
研究支援推進経費	0		
計	0		

法人番号

131060

年 度	平成 28 年度 テーマ2		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
主 な 内 容			
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	2,053	消耗品費	636
		図書資料費	979
		その他	438
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	47	郵便費	43
		電話料	4
印 刷 製 本 費	155	印刷費	155
旅 費 交 通 費	371	教育研究出張費	371
報 酬 ・ 委 託 料	938	業務委託費	560
		保守契約費	205
		その他	173
賃 借 料	0		0
計	3,564		
ア ル パ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	2,543	研究プロジェクトの補助	1,937
		丸山文庫資料のデジタル化	606
教育研究経費支出	0		
計	2,543		
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		
図 書	0		
計	0		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		
ポスト・ドクター	3,376	研究プロジェクトの補助	3,376
研究支援推進経費	0		
計	3,376		